第１回 朝日温海道路連絡調整会議
開催結果概要

１．日時

令和 7 年 10 月 10 日（金）13 時 30 分～15 時 00 分

２．場所

さんぽく会館　集会室（新潟県村上市府屋１７７－１）

３．出席者

新潟県　土木部　　道路建設課長（代理：高規格道路推進室長）
山形県　県土整備部　道路整備課長（代理：高速道路整備推進室長）
村上市　建設課長
鶴岡市　建設部長
国土交通省　北陸地方整備局　新潟国道事務所長
羽越河川国道事務所長
東北地方整備局　酒田河川国道事務所長

４．議事概要

朝日温海道路の事業の進捗状況などを各事業者から報告し、以下の事項を確認した。

（１）事業の進捗状況について

・朝日温海道路の進捗状況とともに、道の駅リニューアルや移転による地域活性化に向けた情報を共有し、各事業の連携を図っていくことを確認した。

（２）事業を取り巻く状況

・トンネル工事に着手し脆弱な地山が確認されことを受け、事業区間における各トンネルの支保パターンの見直しや補助工法の追加対策、トンネル工事にあたり地すべり対策が必要であることなど、事業を進めるうえで必要な対策を確認した。
・出席者より地すべり対策後のモニタリング期間について確認があり、状況に応じて定めることを確認した。

（３）課題とその対応

・構造物が多い区間や、自然由来の重金属等の対策に関する状況、脆弱な地山により掘削が一時中断しているトンネルの現在の状況について確認した。
・出席者より早期整備効果発現に向けた検討実施及び情報共有することの要望意見があった。

以上

朝日温海道路 連絡調整会議
（第1回）

説明資料

令和7年10月10日

北陸地方整備局　新 潟 国 道 事 務 所
羽越河川国道事務所
東北地方整備局　酒田河川国道事務所

目次

1. 朝日温海道路とは
2. 事業の進捗
3. 事業を取り巻く状況
4. 課題とその対応

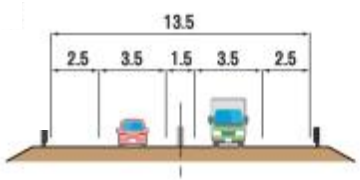
（注）本資料中のトンネルや橋梁、ICの名称は全て仮称です。

1. 朝日温海道路とは

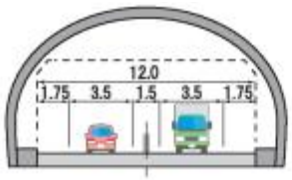
国道7号　朝日温海道路　延長40.8km



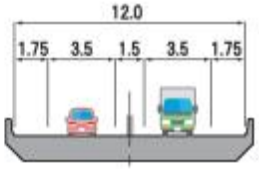
- 区　　間：起点　新潟県村上市川端（かわばた）
  終点　山形県鶴岡市大岩川（おおいわがわ）
- 延　　長：40.8km
- 設計速度：80km/h



土工部



トンネル部



橋梁部

1. 朝日温海道路とは

年度	主な経緯
平成23年 3月 平成24年 3月	新直轄区間(神林岩船港IC - 朝日まほろばIC間)供用 新直轄区間(あつみ温泉IC - 鶴岡JCT間)供用
平成24年12月 平成25年 1月	都市計画決定(山形側) 都市計画決定(新潟側)
平成25年度	事業化
平成27年12月	用地買収着手
平成28年11月	朝日温海道路 大岩川地区道路改良工事 安全祈願祭
平成29年 9月	朝日温海道路　起工式(1号トンネル工事着手)



安全祈願祭の様子(山形県側)
(平成28年11月)



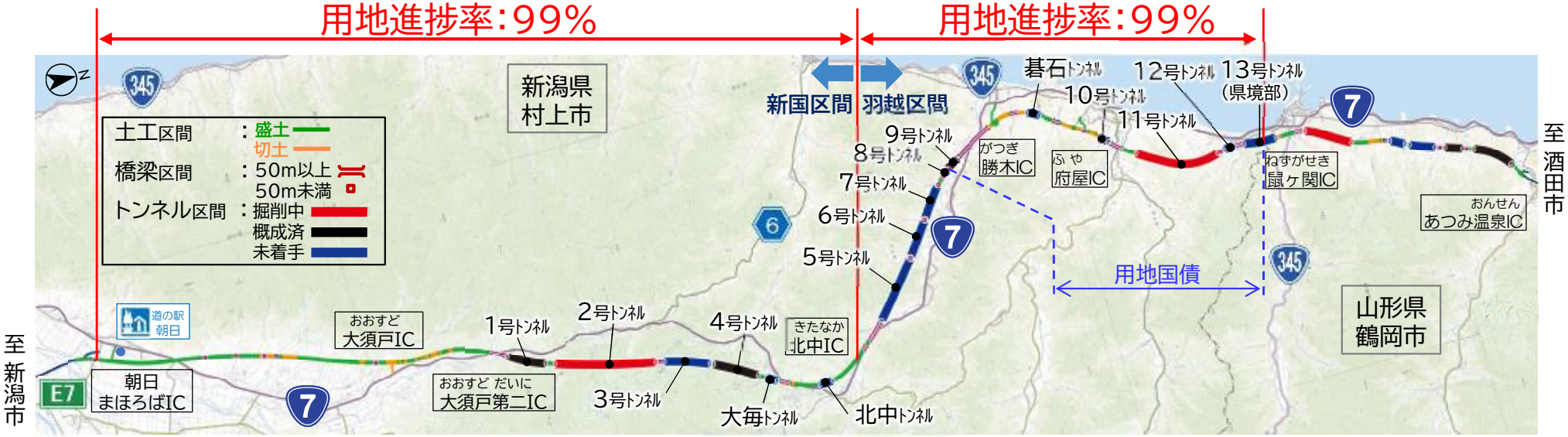
起工式　鍬入れの様子
(平成29年9月)

2. 事業の進捗

① 用地取得状況 ［新潟県側］

・平成27年度から用地取得に本格着手
・令和6年度末現在の用地取得率は99%（用地取得難航箇所が数箇所存在）
・地権者多数の用地難航箇所では、地縁団体の登記特例※を用いた買収例も実施

※地縁団体の登記特例：「認可地縁団体」が所有する不動産で、登記名義人やその相続人の所在が不明な場合に、市町村長が行う「公告手続」を経て、認可地縁団体が単独で不動産の所有権移転登記を申請できるようになる制度





用地進捗率の推移

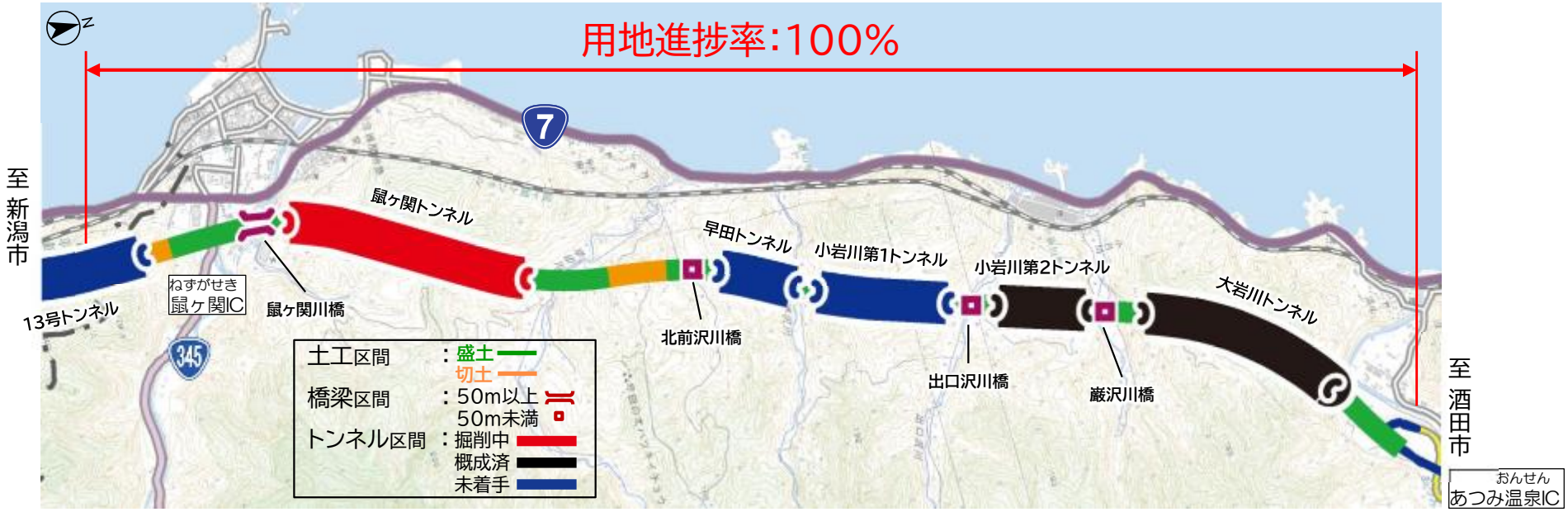


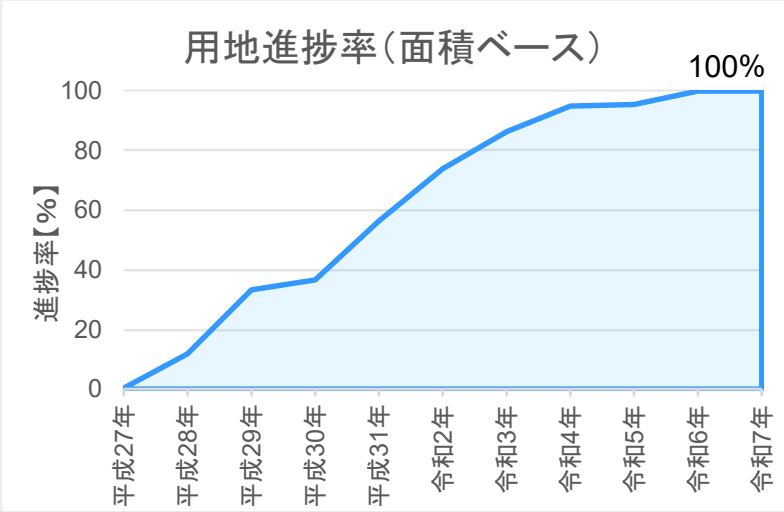
用地買収集団調印（平成27年12月）

2. 事業の進捗

① 用地取得状況 ［山形県側］

○平成27年度から用地取得に本格着手
○令和6年度末現在の用地取得率は100%





用地進捗率の推移



調印及び図面確認会（平成31年3月）

2. 事業の進捗

② 埋蔵文化財調査状況 ［新潟県側］

○複数時代に渡る多層多面の遺跡が確認され発掘調査が長期化



＜上野遺跡（檜原地先）＞

・発掘調査期間：9年目（平成29年度～令和7年度（予定））
・4層（7面）に区別して調査を実施
・複数層に渡り、延べ48,628m2を調査（令和6年度末）
・縄文時代後期前葉（約4,000年前）の大規模な集落跡だったとみられる
・掘立柱建物、焼人骨集積土坑などの遺構が出土


発掘調査状況


掘立柱建物跡

＜竹ノ下遺跡（堀ノ内地先）＞

・発掘調査期間：6年目（令和2年度～）
・古代（平安時代）・中世（室町時代）の遺跡
・古代は竪穴建物や鉄鍛冶、中世は掘立柱建物や土坑など多くの遺構を検出

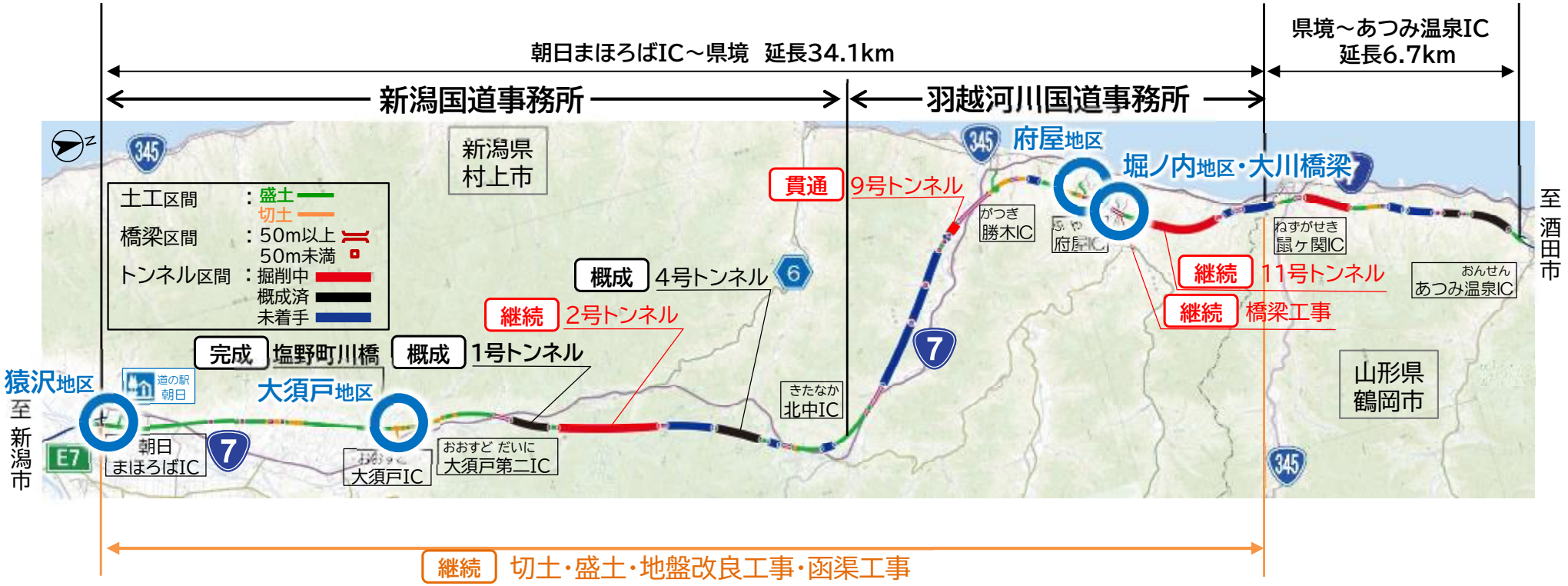

発掘調査状況


掘立柱建物

2. 事業の進捗

③ 工事着手状況 ［新潟県側］

国道7号　朝日温海道路　延長40.8km









朝日温海道路の工事進捗状況（盛土工事）

【猿沢（さるさわ）地区】

〇盛土構造が主体となる区間であり、盛土工事を推進中
〇1号トンネル着手に合わせ平成29年度より改良工事に着手



朝日温海道路の工事進捗状況（切土工事）

【大須戸（おおすど）地区】

○大須戸ICの予定箇所で、約70万m3の大規模切土が必要
○今年度より切土工事に着手



朝日温海道路の工事進捗状況（盛土・切土工事）

【府屋（ふや）地区】

○府屋ICの予定箇所で、約60万m3の大規模切土が必要
○令和5年度より切土工事に着手



朝日温海道路の工事進捗状況（橋梁工事）

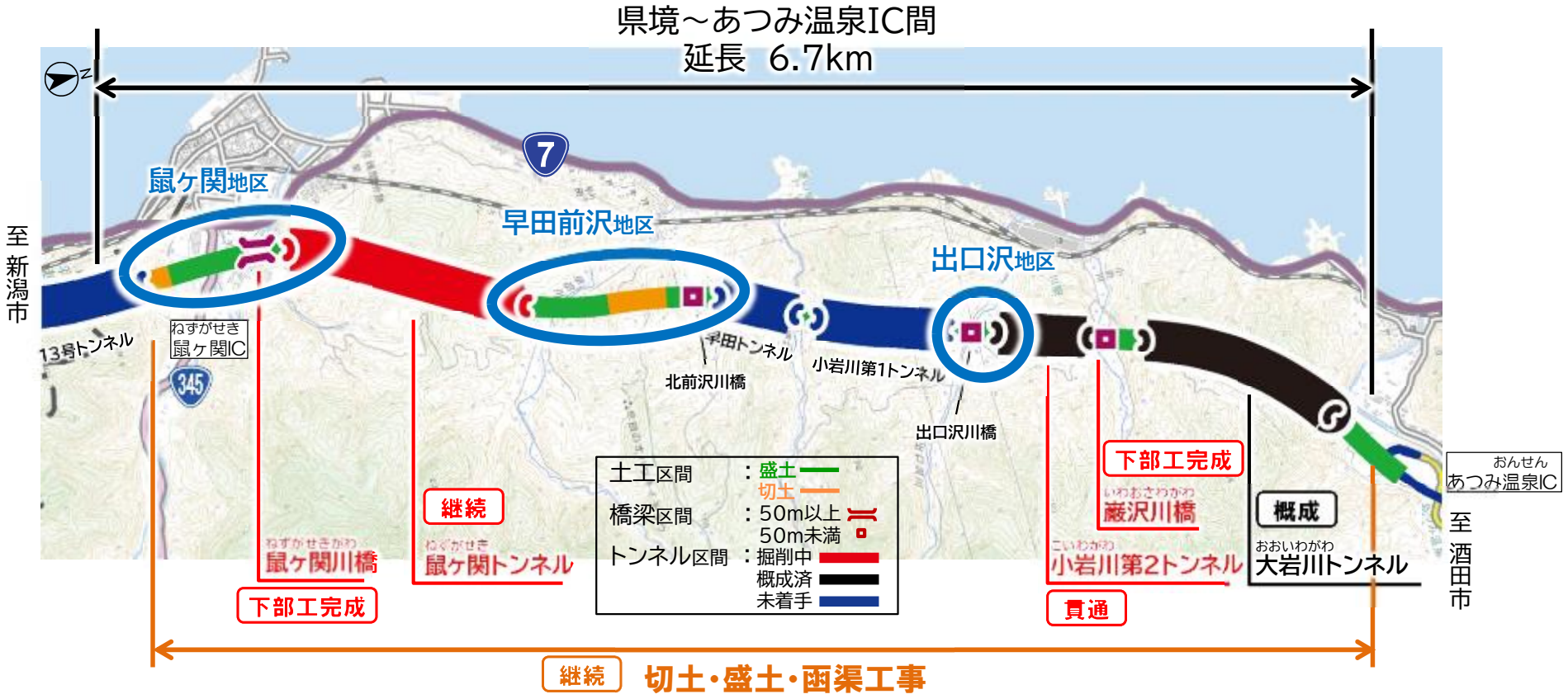
【堀ノ内地区・大川橋梁】

○橋長274mの長大橋梁（6径間）であり、令和4年度より橋梁下部工事に着手
○令和6年度までに3基／7基を施工済、今年度から2基（河川内1基と陸上部1基）施工中



2. 事業の進捗

③ 工事着手状況 ［山形県側］





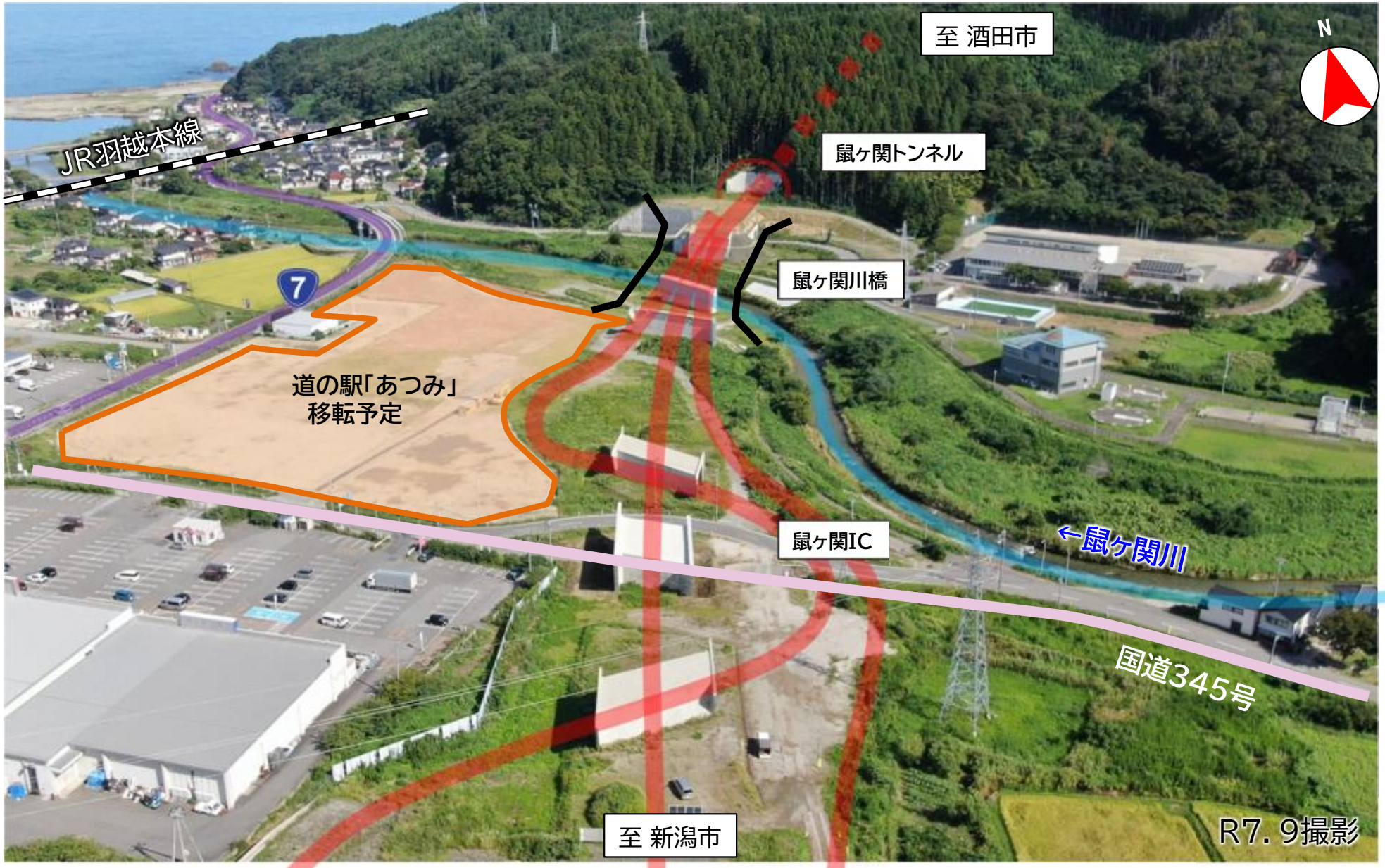




朝日温海道路の工事進捗状況（鼠ヶ関IC周辺工事）

【鼠ヶ関（ねずがせき）地区】

○鼠ヶ関IC及び鼠ヶ関川橋が主体となる区間であり、今年度はIC接続部の国道345号の改良及び鼠ヶ関川橋の上部工工事を推進



朝日温海道路の工事進捗状況（盛土・切土工事）

【早田前沢地区】

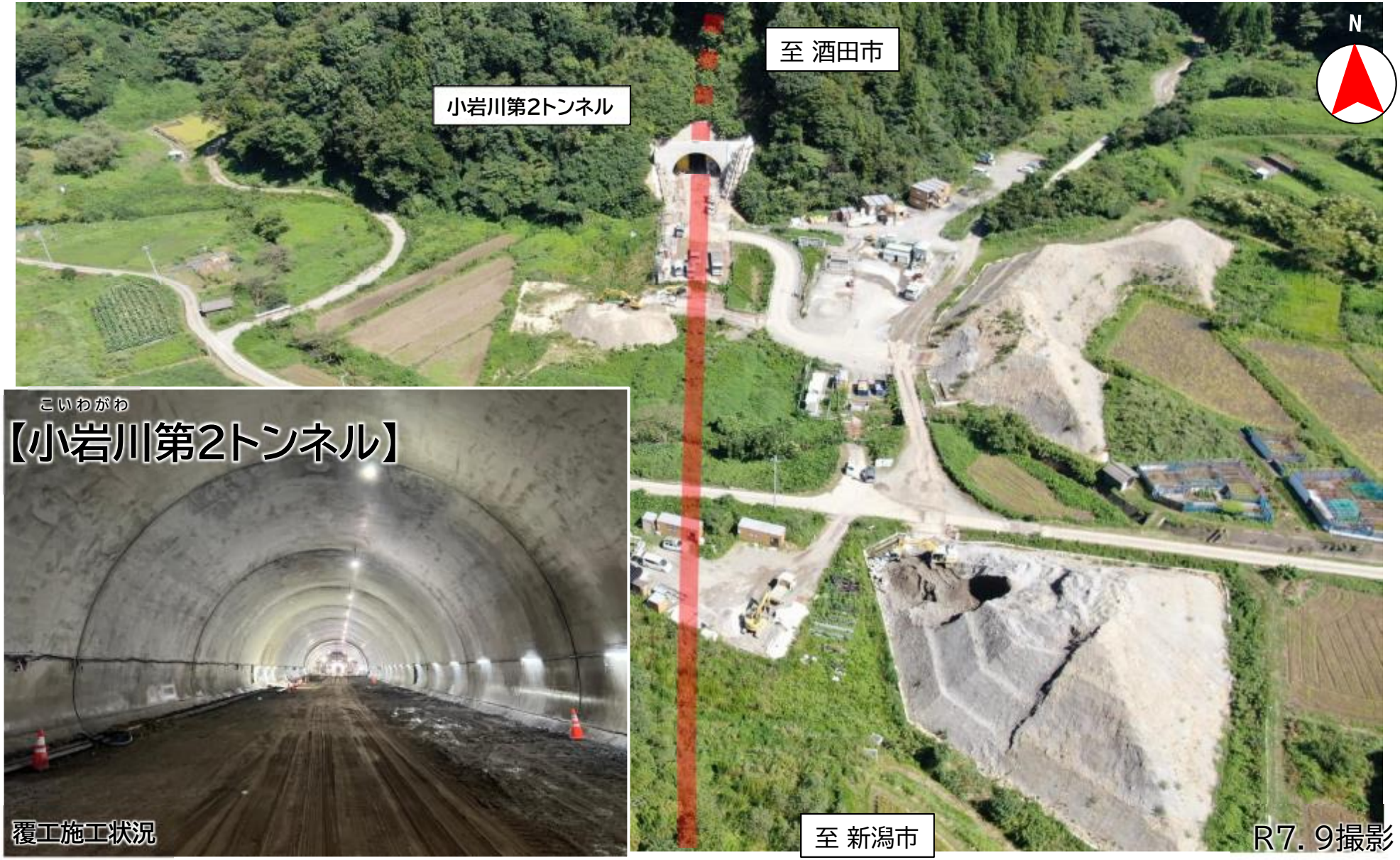
○切土工事を推進中
○早田川との交差部のカルバートボックス上部の盛土工事を推進中



朝日温海道路の工事進捗状況(トンネル工事)

【出口沢(でぐちさわ)地区(小岩川第2トンネル)】

○小岩川第2トンネルの工事を推進中
○令和7年3月貫通。坑門や覆工コンクリートの工事を行い、令和7年内に概成予定



2. 事業の進捗

④「環境調査」の実施状況

○工事の施工による、猛禽類をはじめとした周辺生物への影響調査を実施中（平成22年度～）



サシバ（絶滅危惧種）の営巣、繁殖状況

タカネマスクサの自生
（準絶滅危惧種：新潟県条例）



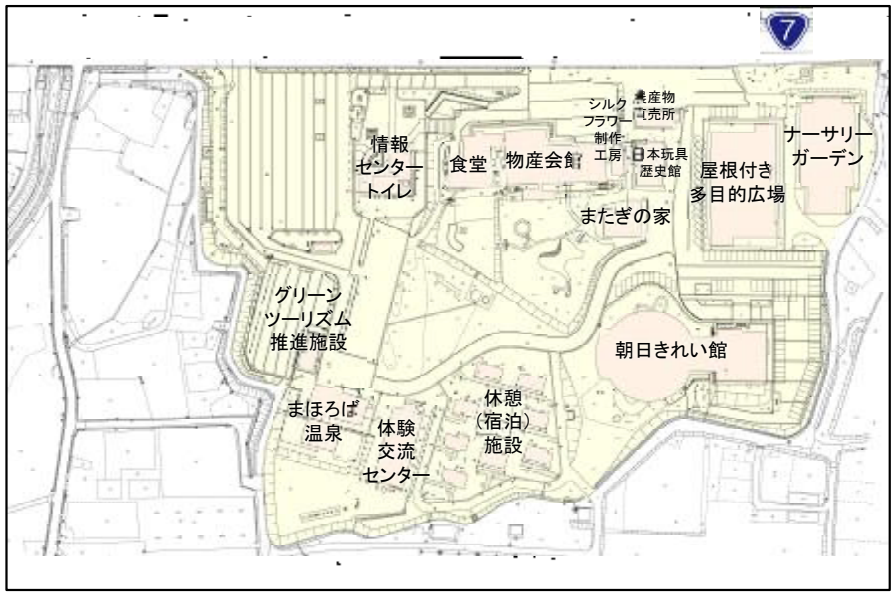


2. 事業の進捗

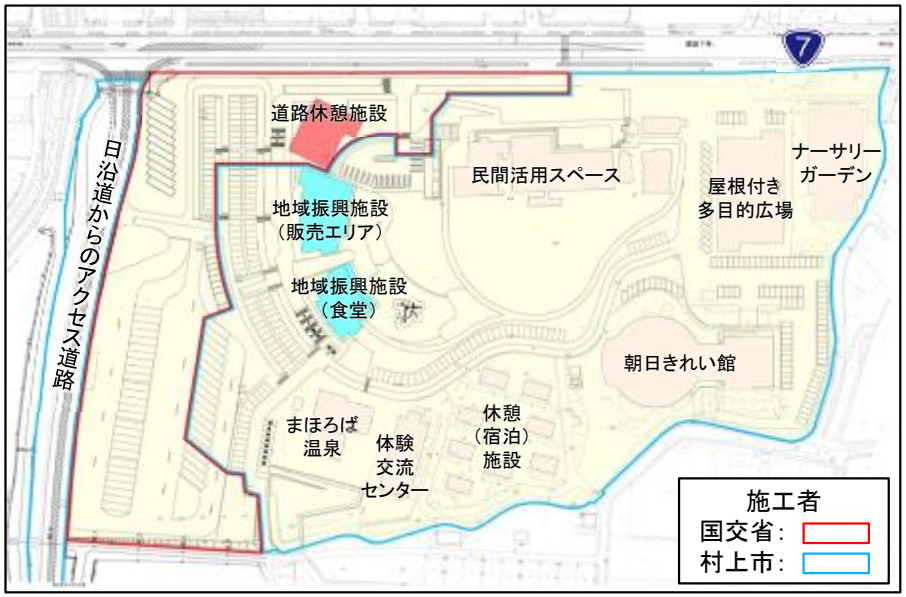
⑤「道の駅 朝日」の整備状況

○村上市 「道の駅朝日拡充基本計画(令和3年3月公表)」に基づき、地域振興施設等をリニューアル予定
○令和5年5月9日、村上市と羽越河川国道事務所が連携して整備していくための「基本協定」を締結

＜現況＞



＜リニューアル後＞





リニューアル施設のイメージ図



「基本協定」の締結式

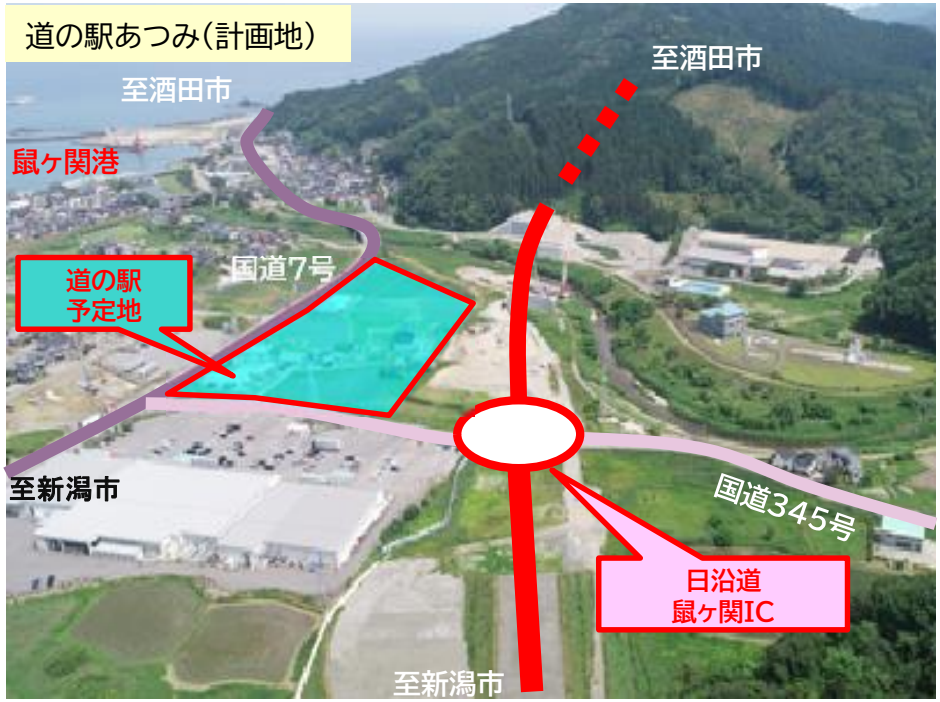


道の駅とアクセス道路(令和7年5月)

2. 事業の進捗

⑤「道の駅 あつみ」の整備状況

○設計・建設・15年間の維持管理・運営を一括して発注するDBO方式で事業者を決定
○令和6年度まで粗造成完了。令和7年度から工事着手。令和9年4月の移転開業を予定






【イメージパース】 全景


【イメージ】 国道7号出入り口付近から駅舎を俯瞰


【イメージ】 駅舎産直物販スペース

3. 事業を取り巻く状況

① トンネル工事による支保パターンの見直し・補助工法の追加 ［新潟県側］

○新潟県側では5トンネルに着手、うち3トンネルは概成または貫通済
○各トンネルで当初計画に比べ脆弱な地山が確認され、支保パターン※の見直しや補助工法の追加対策を実施

※支保パターン：地山等級に応じて支保部材（吹付けコンクリート、ロックボルト、鋼製支保工等）を適宜選定し、これらを組み合わせ、厚さや配置などをパターン化したもの




脆弱な地山における切羽の崩壊
（2号トンネル）


内空変位に伴う縫返し
（4号トンネル）


脆弱な地山における切羽の崩壊
（9号トンネル）


脆弱な地山における切羽の崩壊
（11号トンネル）

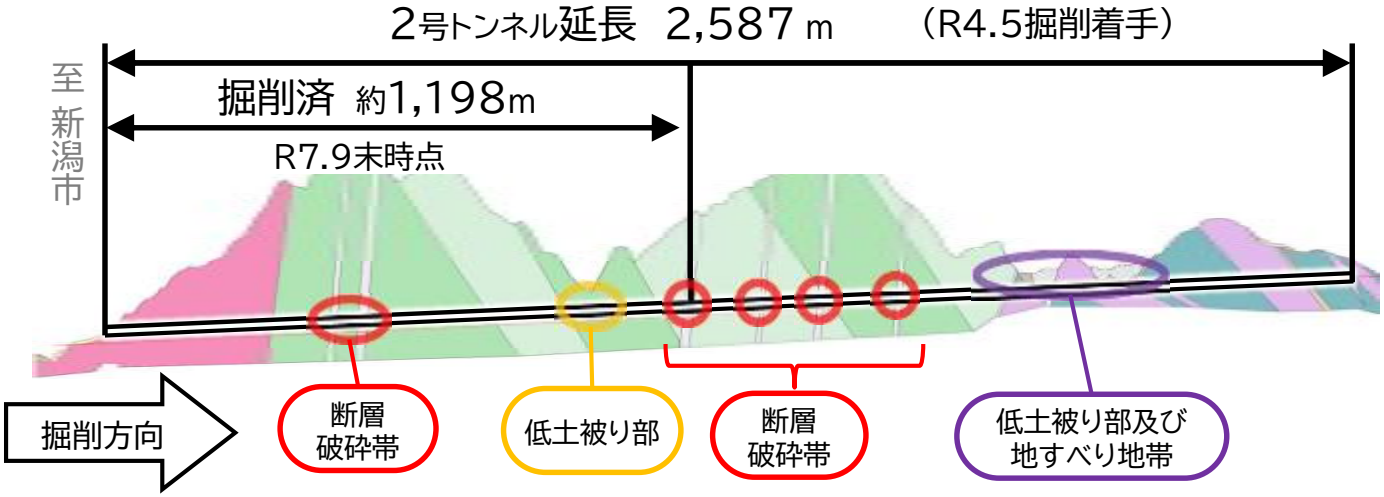
3. 事業を取り巻く状況

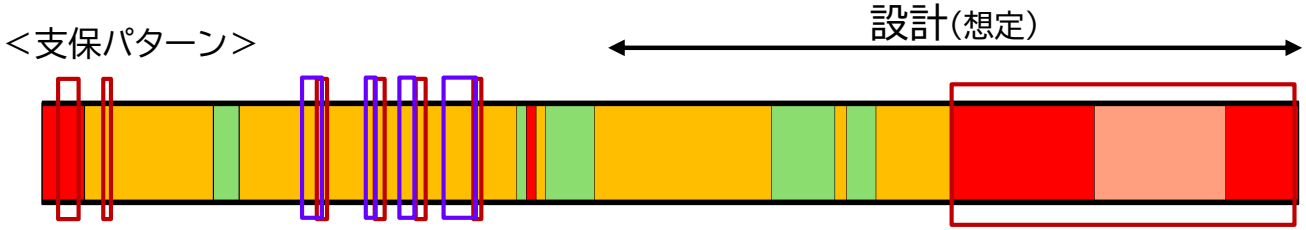
2号トンネルの事例

○2号トンネルは、令和4年度より掘削に着手し、令和7年9月時点で掘削進捗率は約46%
○断層破砕帯※等の脆弱部で切羽の崩壊や内空変状が生じ、支保パターンの変更や補助工法の追加対策が必要となった

※断層破砕帯：断層に沿って周囲の岩石が細かく砕かれ、帯状に集まった部分

地層凡例			
岩船花崗岩類　黒雲母花崗岩	朝日層　泥　岩	地すべり崩積土層
天井層　輝石安山岩溶岩	凝灰岩	崖錐堆積層
安山岩質火砕岩	砂　岩	断層破砕帯



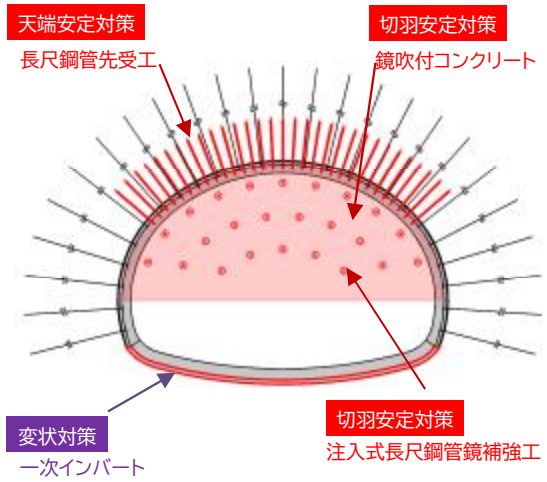


支保パターン凡例	←良好　脆弱→
	■:B ■:CⅠ ■:CⅡ ■:DⅠ ■:DⅡ ■:DⅢ

補助工法凡例		
□	天端・切羽安定対策（先受工・鏡補強工等） 当初：0m → 846m	□ 変状対策（一次インバート等） 当初：0m → 203m

補助工法の概要

断面図





一次インバートによる早期閉合

2号トンネル工事の施工状況　切羽からの湧水

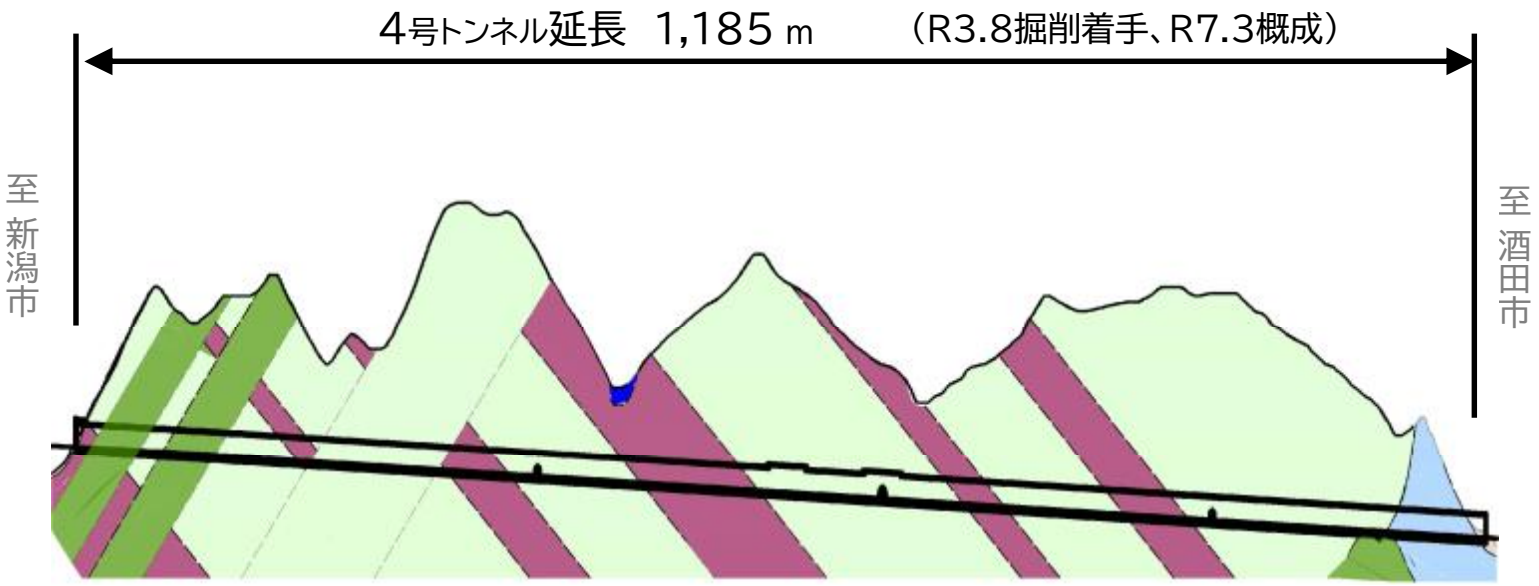
動画



3. 事業を取り巻く状況

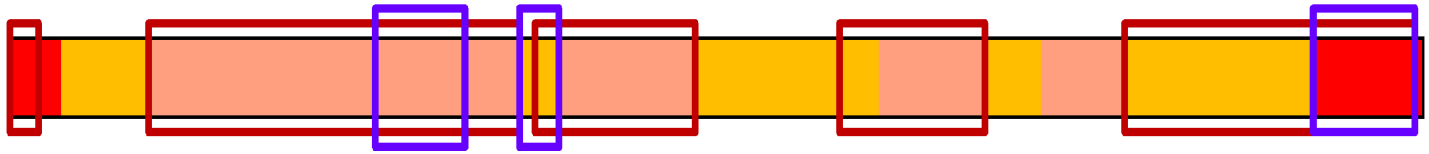
4号トンネルの事例

○4号トンネルは、令和3年度より掘削に着手し、令和6年度に概成
○当初の想定よりも脆弱な地山が確認され、支保パターンの変更が必要となった
○DⅡ区間の大半の区間において、天端安定のため補助工法(先受工)が必要となった



地層凡例
- 渓床堆積層
- 崖錐堆積層
- 大須戸層　泥岩
- 明神岩安山岩類
  - 凝灰角礫岩
  - 安山岩溶岩－自破砕溶岩
  - 安山岩質火砕岩

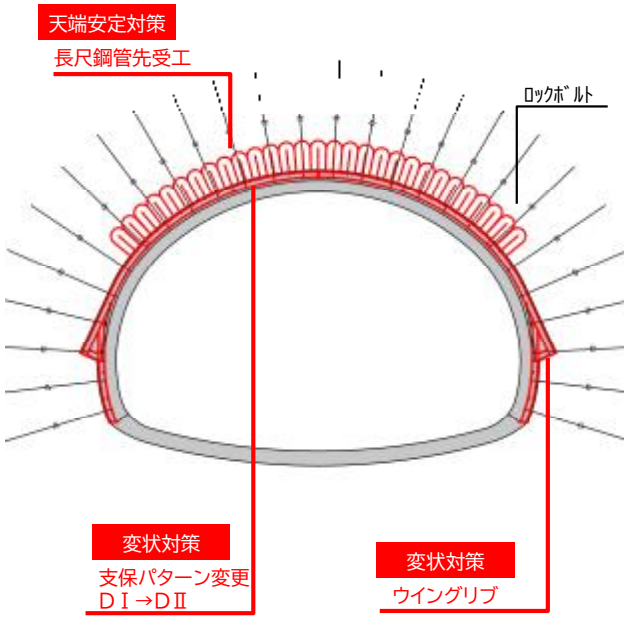
＜支保パターン(実績)＞



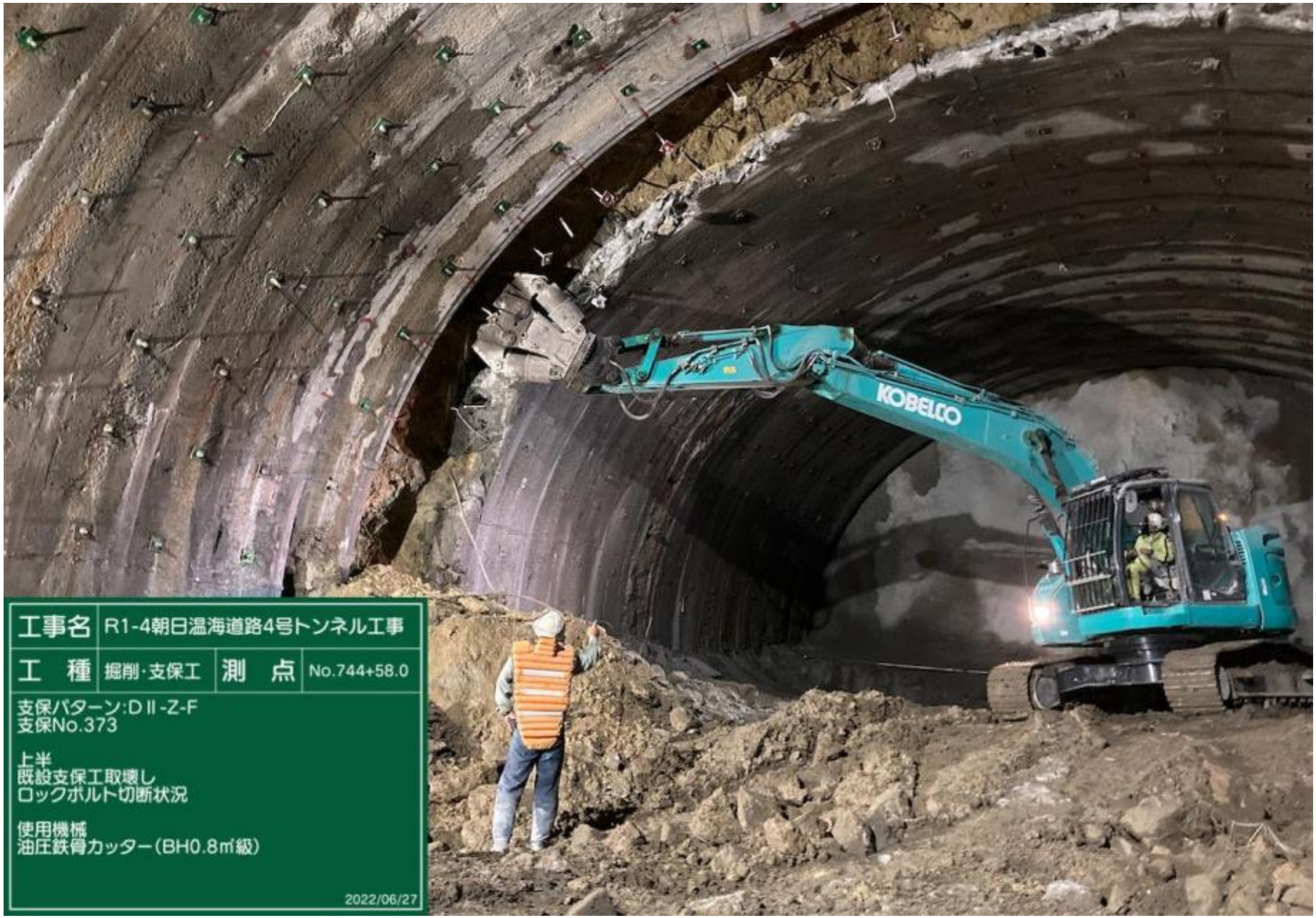
支保パターン凡例	←良好　脆弱→ ■:B ■:CⅠ ■:CⅡ ■:DⅠ ■:DⅡ ■:DⅢ

補助工法凡例	
□ 天端・切羽安定対策 (先受工・鏡補強工等) 当初:0m → 811m	□ 変状対策 (支保ﾊﾟﾀｰﾝ、ｳｲﾝｸﾞﾘﾌﾞ等) 当初:0m → 193m

補助工法の概要



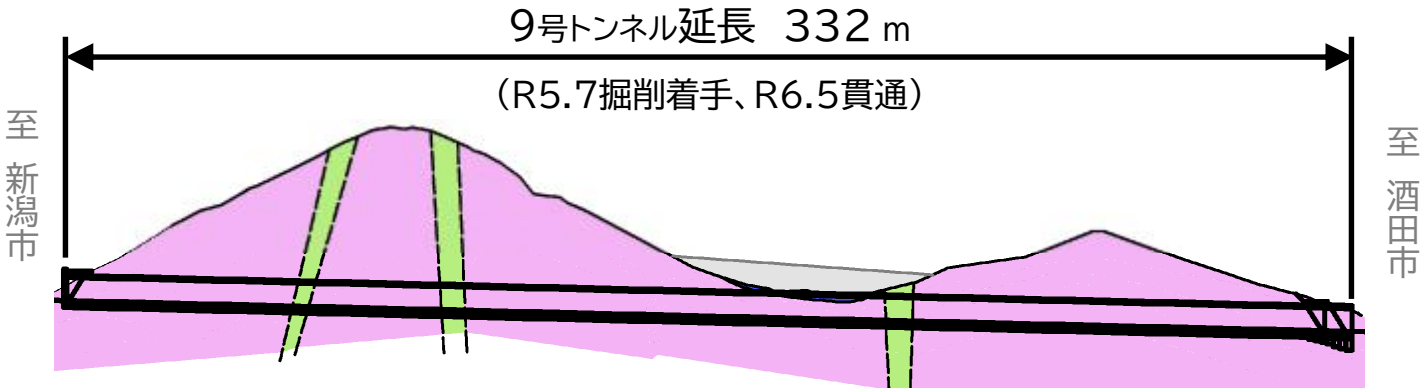
4号トンネル工事の施工状況　変位発生



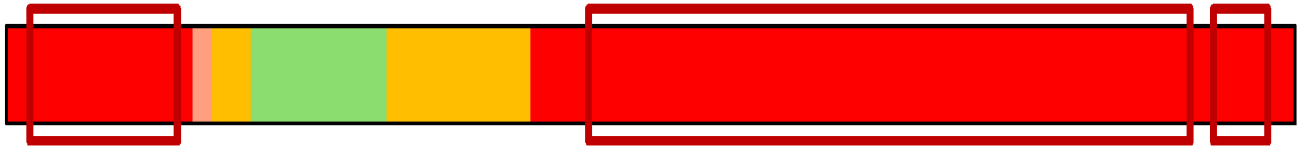
3. 事業を取り巻く状況

9号トンネルの事例

○9号トンネルは、令和5年度より掘削に着手し、令和6年5月に貫通済み
○令和5年度に実施した詳細設計段階では、地質調査結果を踏まえ補助工法は不要と計画していた
○掘削開始後、想定よりも脆弱な地山が確認され、多量の湧水処理や補助工法（天端安定対策、切羽安定対策）が必要となった



＜支保パターン（実績）＞

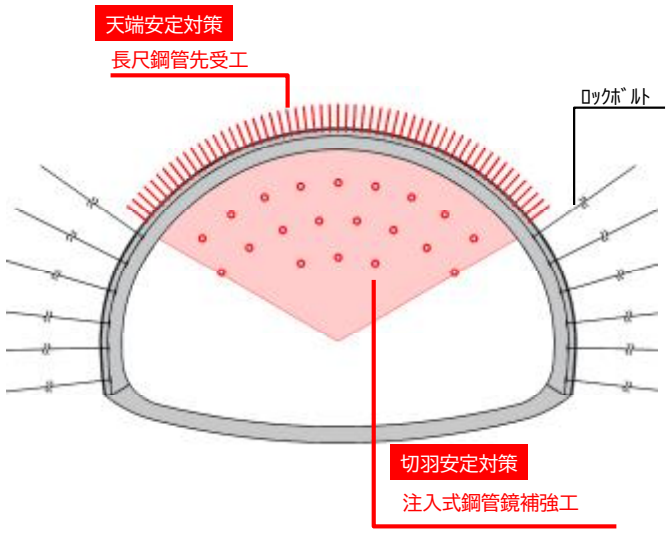


支保パターン 凡例	←良好　脆弱→ ■:B ■:CⅠ ■:CⅡ ■:DⅠ ■:DⅡ ■:DⅢ

補助工法 凡例	□ 天端・切羽安定対策（先受工・鏡補強工等） 当初:0m → 207m

地層凡例	
低土被り部盛土	
渓床堆積物	
貫入岩類	
岩船花崗岩類	

補助工法の概要





湧水処理の状況

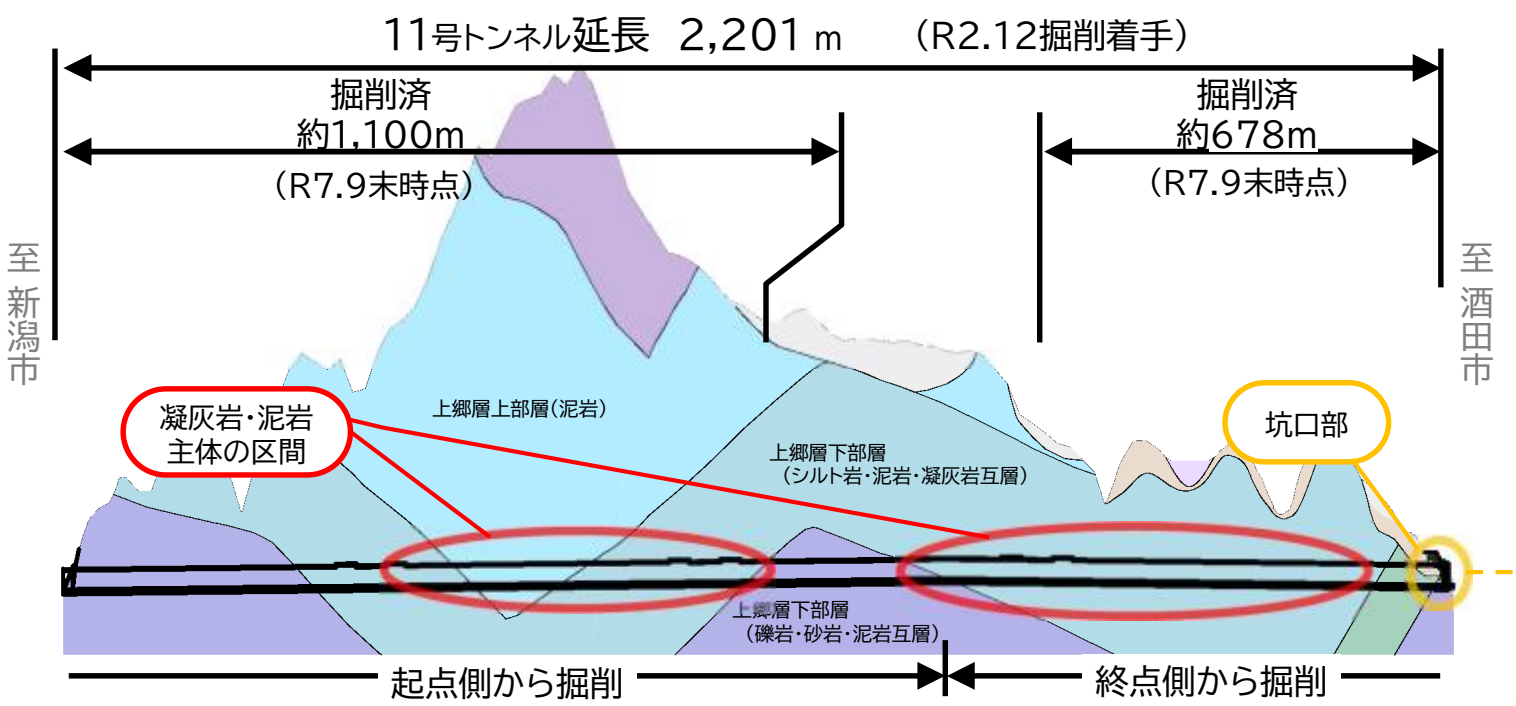
9号トンネル工事の施工状況　切羽の崩落



3. 事業を取り巻く状況

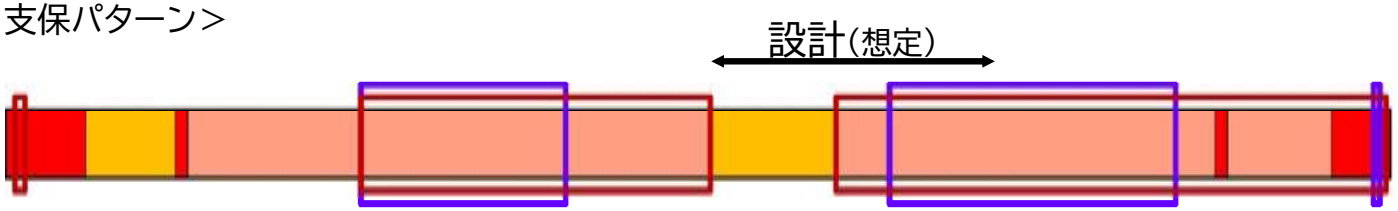
11号トンネルの事例

○11号トンネルは、令和2年度より掘削に着手し、令和7年9月時点で掘削進捗率は約80%
○凝灰岩と泥岩を主体とする地層により切羽が自立せず、切羽安定のため補助工法(長尺鏡補強)が必要となった
○終点側坑口部では掘削時の変位が収まらず、変状対策(フットパイル、インバートストラット)が必要となった



地層凡例
- 地すべり崩積土層
- 崖錐堆積層
- 上郷層上部層 泥岩
- 上郷層下部層
  - シルト岩・泥岩・凝灰岩互層
  - 凝灰岩
  - 礫岩・砂岩・泥岩互層
- 粗粒玄武岩・玄武岩

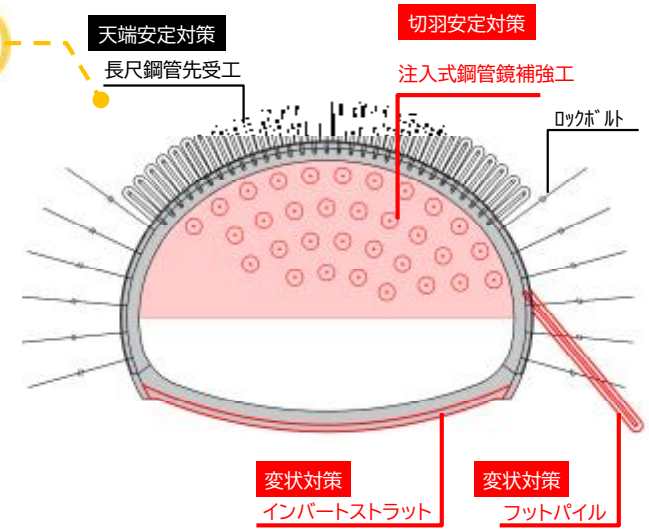
＜支保パターン＞



支保パターン凡例	←良好 ■:B ■:CⅠ ■:CⅡ ■:DⅠ ■:DⅡ ■:DⅢ 脆弱→
補助工法凡例	天端・切羽安定対策(先受工・鏡補強工等) 当初:0m → 1,445m 変状対策(ｲﾝﾊﾞｰﾄｽﾄﾗｯﾄ等) 当初0m → 790m

補助工法の概要

＜坑口部の事例＞



3. 事業を取り巻く状況

11号トンネル工事の施工状況　切羽の崩落

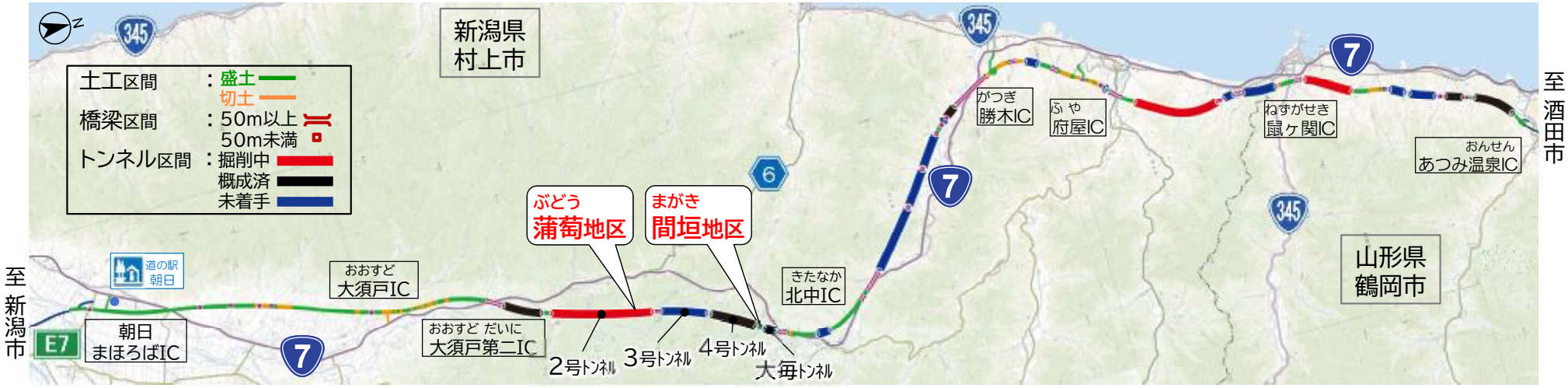
動画



3. 事業を取り巻く状況

② 地すべり対策工の追加 ［新潟県側］

○2号トンネル安全対策として、直上に位置する蒲萄(ぶどう)地区の地すべり対策(抑止杭・押え盛土・排土)を追加
○4号トンネル山形側坑口の施工に際し、間垣(まがき)地区における地すべり対策として、抑止杭を実施





蒲萄地区

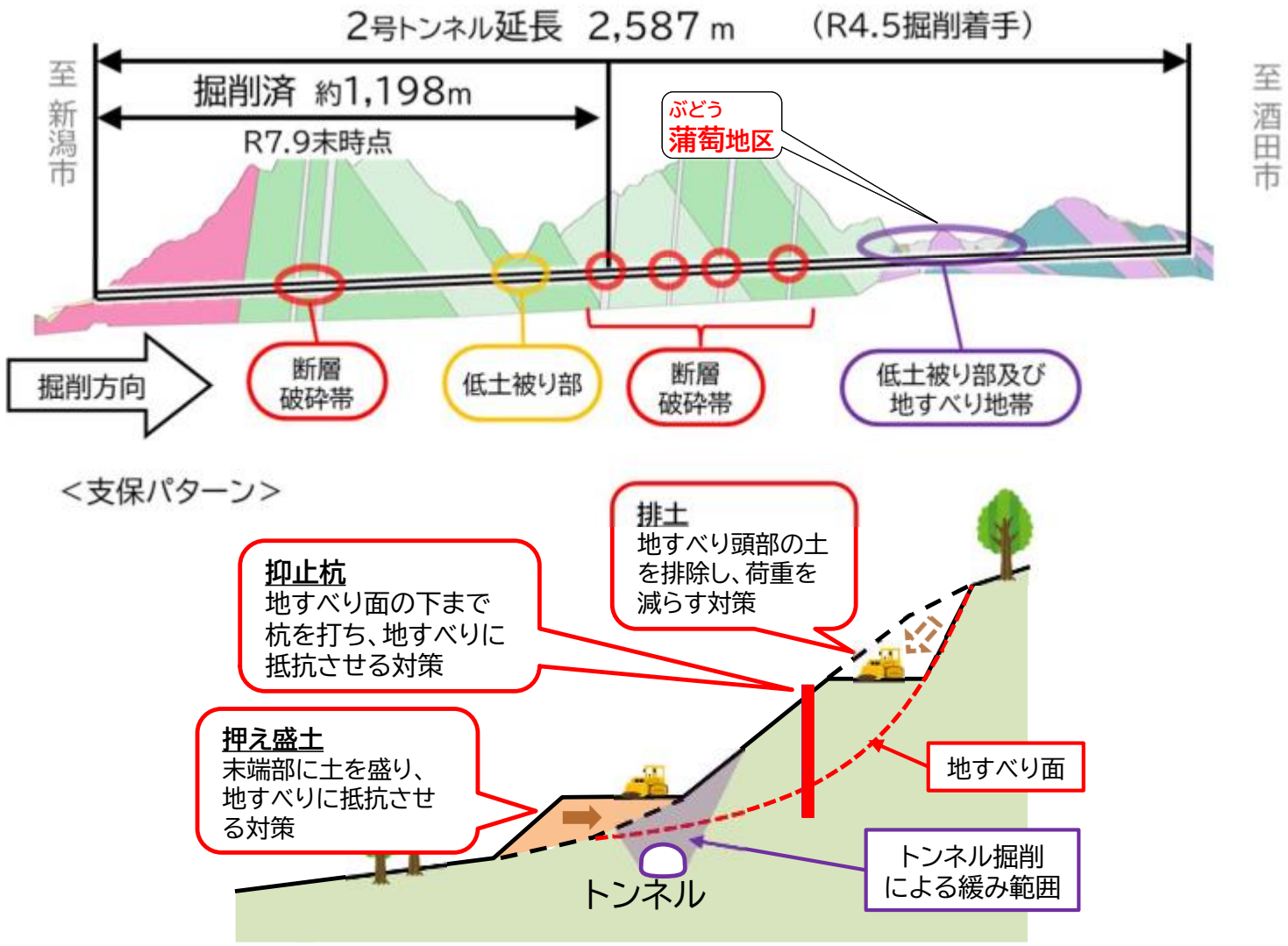


間垣地区の抑止杭打設

3. 事業を取り巻く状況

② 地すべり対策の追加(蒲萄地区地すべり) [新潟県側]

○詳細な地質調査により、地すべり面と2号トンネルの近接が判明
○2号トンネル安全対策として、トンネル施工前に抑止杭・排土・押え盛土など地すべり対策を新たに実施



地すべり対策の概要(側面図)

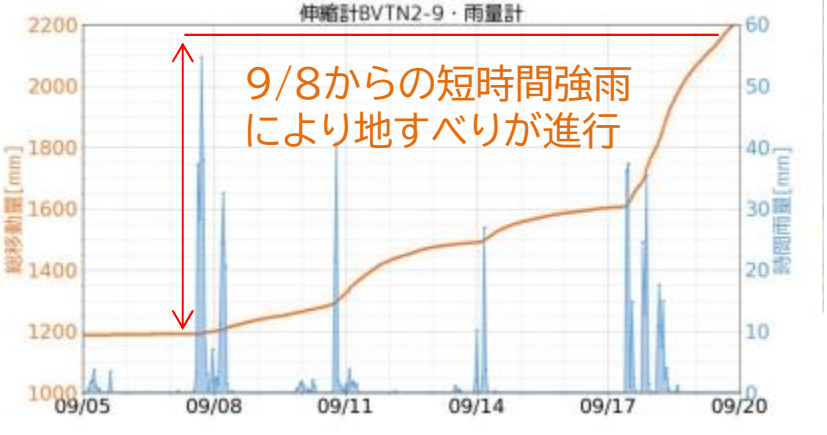
3. 事業を取り巻く状況

② 地すべり対策の追加(蒲萄地区地すべり) [新潟県側]

○R7年9月の短時間強雨により、地すべりブロックの滑動が進行し、追加対策を検討









3. 事業を取り巻く状況

② 地すべり対策の追加(間垣地区地すべり) [新潟県側]

○4号トンネル掘削のための施工ヤード箇所において、地すべり対策が必要となり、抑止杭工を実施した



3. 事業を取り巻く状況

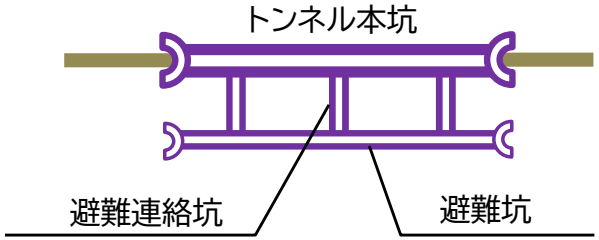
③ 技術基準改定に伴うトンネル避難坑の追加 ［新潟県側］

○トンネル非常用施設設置基準（以下、設置基準）の改訂（R元年9月）を受け、トンネル設備の設置基準について再検討を実施
○新設置基準受け、2～4号、5～7号において、避難坑及び避難連絡坑などの追加整備が必要



避難坑設置トンネル　位置図

避難通路とは、トンネル内で火災が生じ、車での脱出が不可能となった際などに、煙を避けて徒歩で脱出するための通路。
トンネルと並行する避難坑と避難坑と本坑を結ぶ避難連絡坑がある。



避難坑・避難連絡坑のイメージ図

【改訂前】 ※道路トンネル非常用施設設置基準・同解説（H13.10）

○延長3,000m以上のトンネルにおいては、避難通路を設置することが望ましい。 → **該当無し**

【改訂後】 ※道路トンネル非常用施設設置基準・同解説（R1.9）

○高速自動車国道および自動車専用道路で、延長や交通量が以下の条件のいずれかに該当するトンネルの場合。

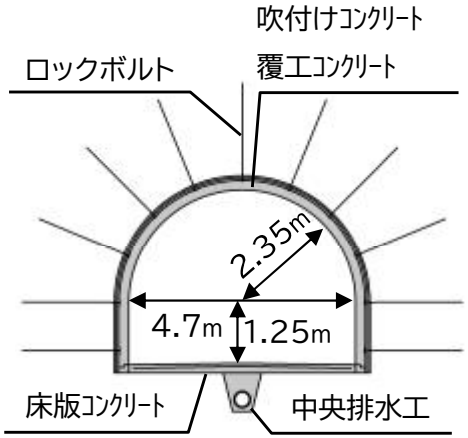
①一定程度以上（750m以上）の延長を有し、トンネル1本あたりの交通量が特に多い（10,000台/日以上）トンネル → **6つのトンネルが該当**

②延長が長く（3,000m以上）、トンネル1本あたりの交通量が多い（4,000台/日）トンネル → **該当無し**



避難坑坑口部のイメージ


避難連絡坑のイメージ



（ＤⅠ-P断面）

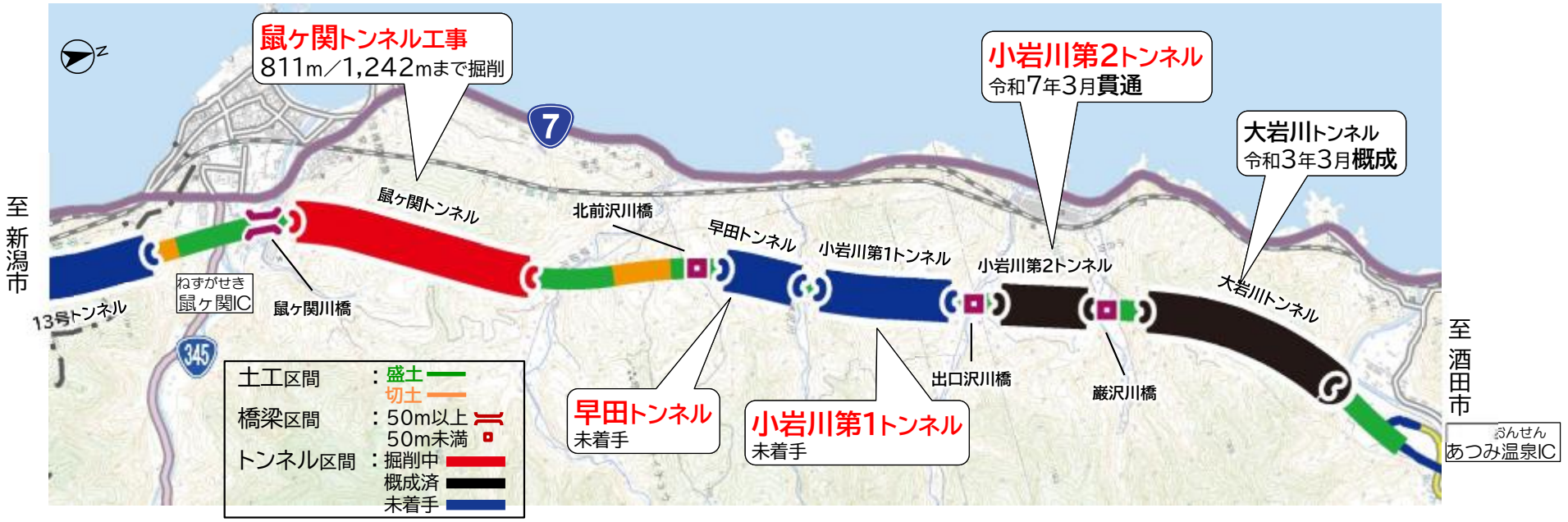
避難坑の標準断面

3. 事業を取り巻く状況

⑤ トンネル工事による支保パターンの見直し・補助工法の追加 ［山形県側］

○鼠ヶ関、小岩川第2トンネルにおいて、脆弱な地山が出現し、切羽の崩壊や支保の変状が発生したため、支保パターンの見直しや補助工法の追加対策が必要

○未着工の早田、小岩川第1トンネルにおいても同様な地山が出現することから、近隣のトンネルの施工実績を踏まえつつ支保パターンと補助工法について設計の見直しを行う





膨張性地山による支保工の沈下状況
（鼠ヶ関トンネル）



支保工変状箇所の再掘削状況
（鼠ヶ関トンネル）



切羽の崩落状況
（小岩川第2トンネル）

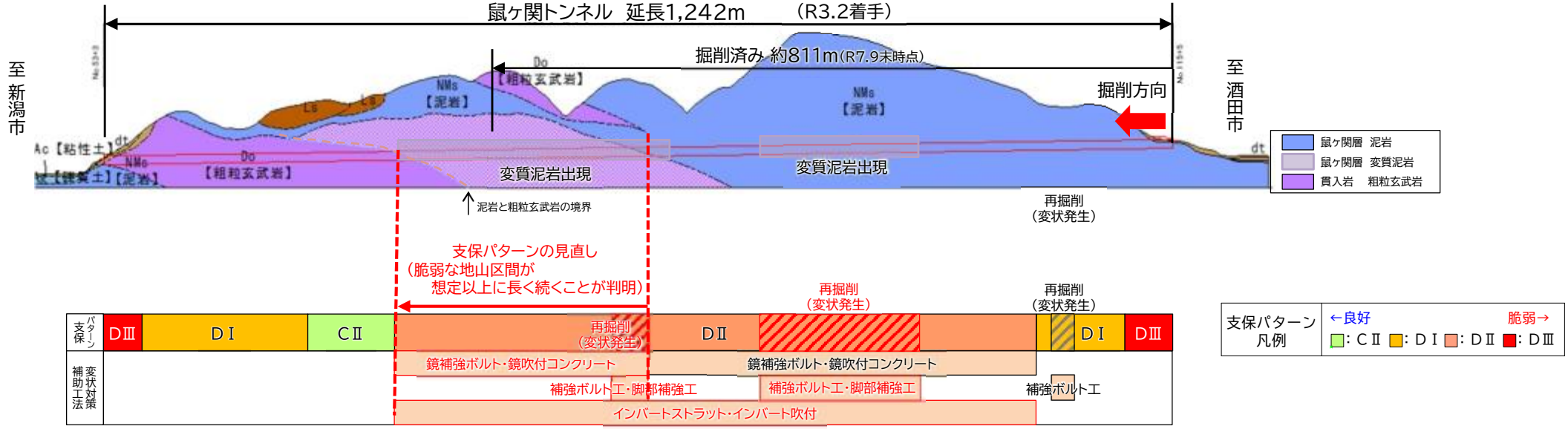


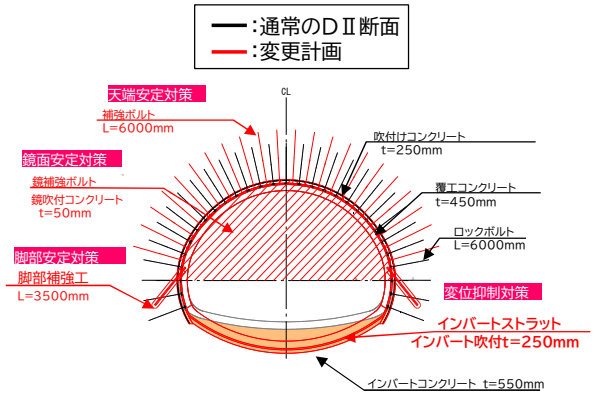
トンネル支保の変状発生状況
（小岩川第2トンネル）

3. 事業を取り巻く状況

鼠ヶ関トンネルの事例

○鼠ヶ関トンネルは、令和3年度より掘削に着手し、令和7年9月時点で掘削進捗率は約65%
○当初計画では想定していなかった脆弱な地山が確認され、掘削時に変状も生じたため、支保パターンの見直しと補助工法、変状対策(インバートストラット、インバート吹付)が必要となった
○今後も脆弱な地山区間が想定以上に存在することが判明したため、支保パターンの見直しと補助工法、変状対策を実施する見込み

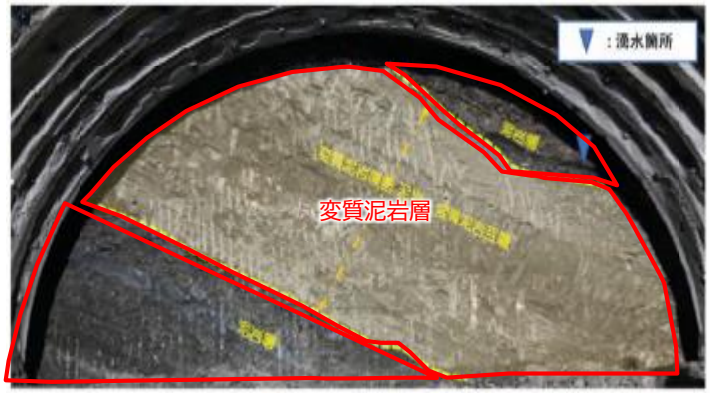




鼠ヶ関トンネルの対策工



トンネル断面変状箇所の対策実施状況

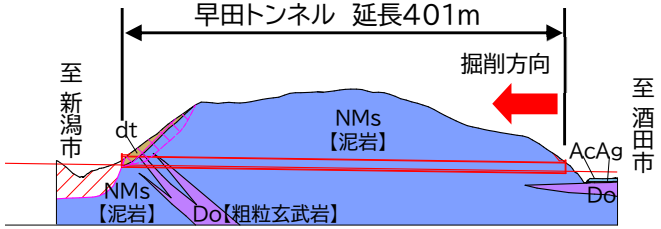


トンネル切羽の状況

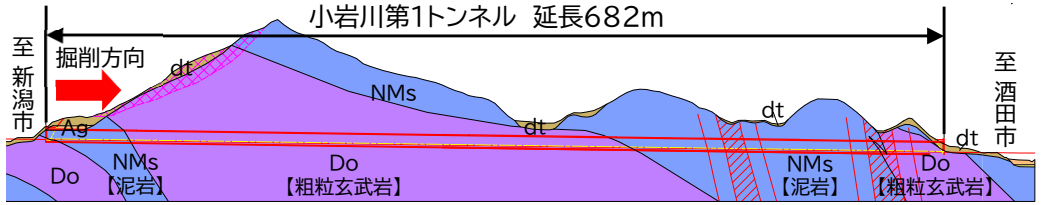
3. 事業を取り巻く状況

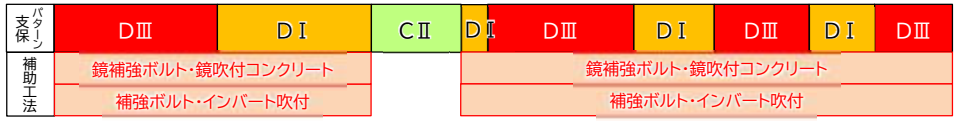
早田トンネル、小岩川第1トンネルの設計見直し内容

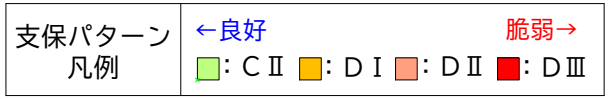
○平成20年度の地表踏査や既往文献調査により地山等級区分を想定していたが、現地ボーリング調査調査の結果、脆弱な地山が確認された
○近隣トンネルの施工実績を考慮し、支保パターンと補助工法について設計の見直しを実施

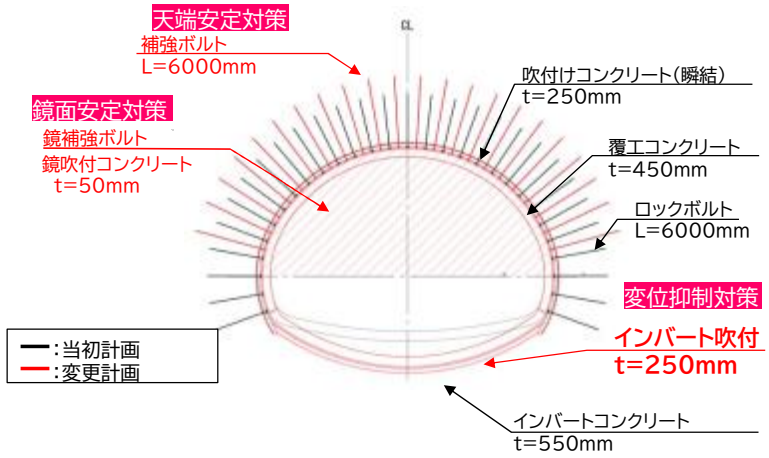












補助工法のイメージ



インバート吹付の施工例

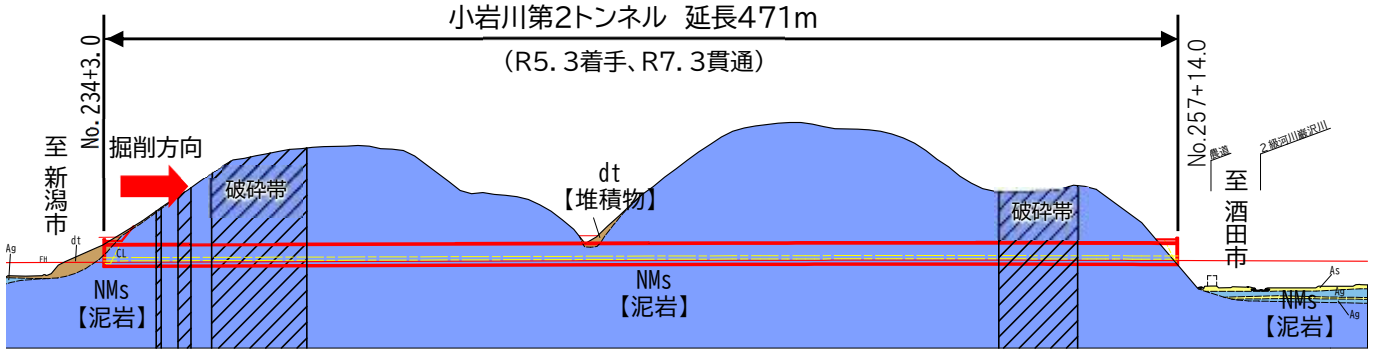


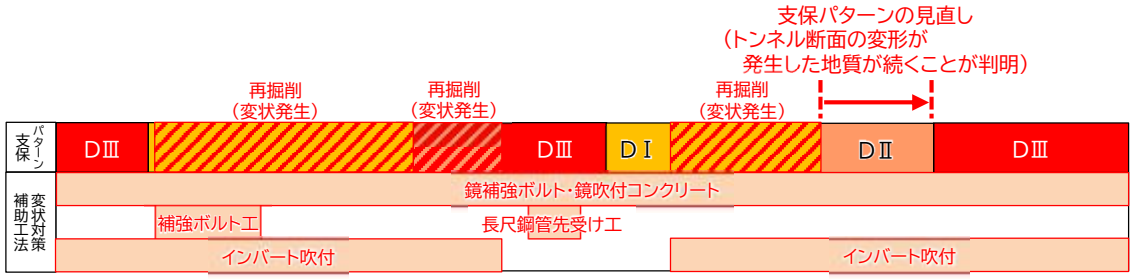
鏡吹付コンクリート、
鏡補強ボルトの施工例

3. 事業を取り巻く状況

小岩川第2トンネルの事例

○小岩川第2トンネルは、令和5年度より掘削に着手し、令和7年3月に貫通済み
○当初計画では現地ボーリング調査に基づく詳細設計により、地山等級区分をＤⅠ、ＤⅢと想定
○掘削開始後、想定よりも脆弱な地質が確認され、トンネル支保の変状も発生したため支保パターンの見直しと補助工法（先受け工など）、変状対策（インバート吹付）が必要となった

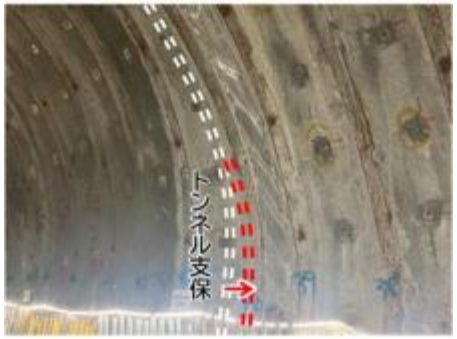




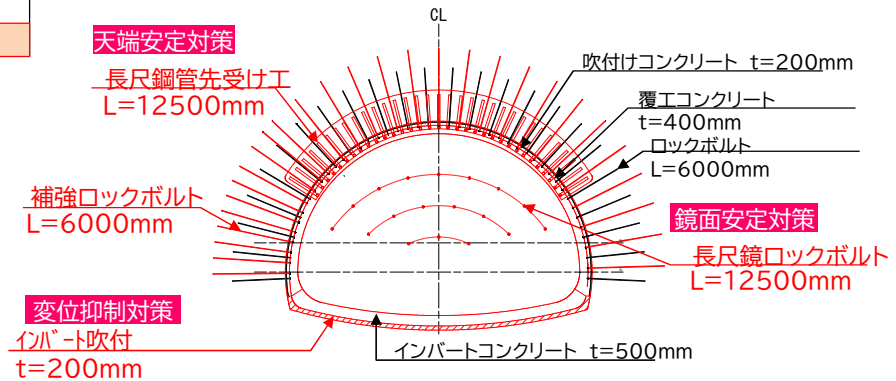
支保パターン凡例	←良好　脆弱→
	：ＣⅡ ：ＤⅠ ：ＤⅡ ：ＤⅢ



鏡吹付コンクリートの崩落発生状況



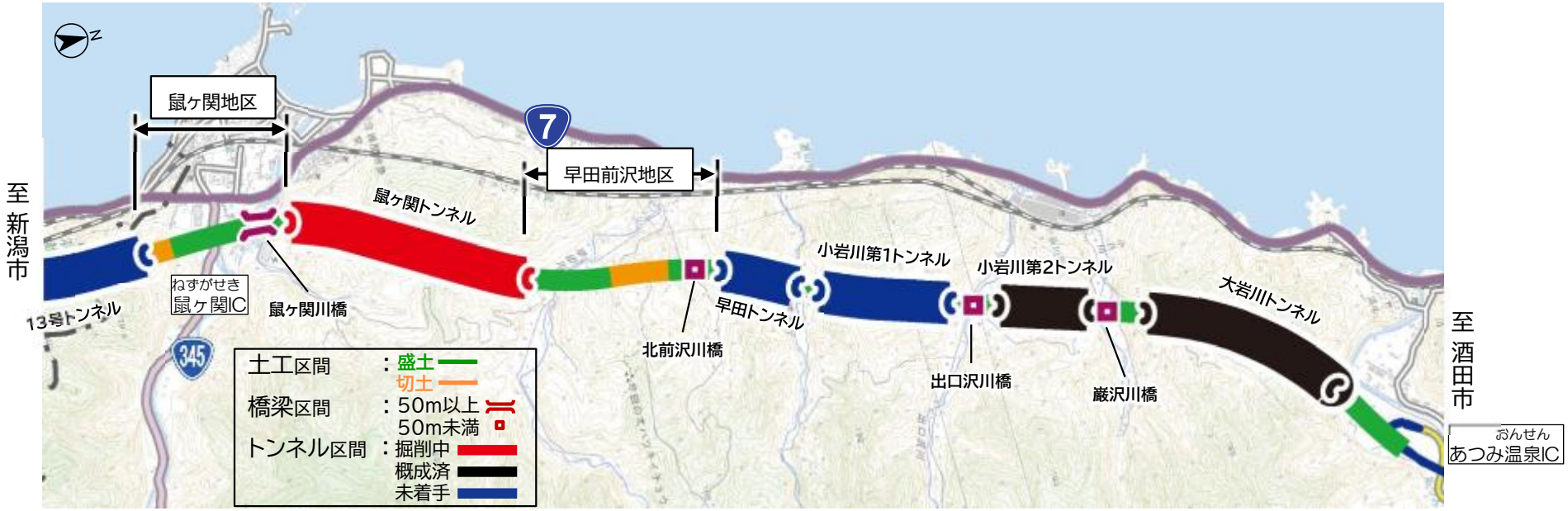
トンネル支保の変状発生状況



小岩川第2トンネルの対策工

⑥盛土部に使用する土砂の土質改良の追加 ［山形県側］

○鼠ヶ関地区および早田前沢地区における掘削土について、土質試験の結果、盛土材にはそのまま流用不可能な土質であることが判明したため、土質改良が必要となった





掘削状況（第4種建設発生土相当）



土質改良状況

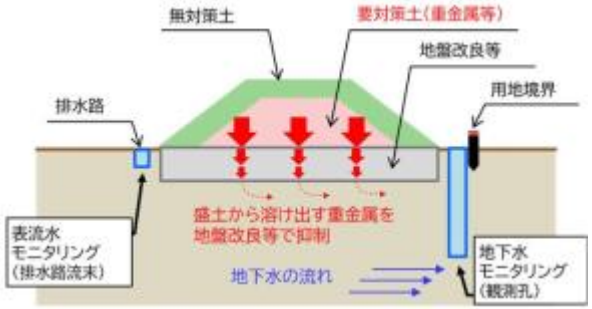
4. 課題とその対応 ： 早期整備効果発現に向けて

朝日温海道路の特徴［新潟県側］

○起点側は盛土・切土区間、大須戸第二ICから山形県側はトンネルや橋梁など構造物が多い
○新潟県側の構造物比は約50%（トンネル・橋梁の構造物延長17km／延長34.1km）
○朝日温海道路では、トンネルや切土で発生した建設発生土を事業区間内で盛土材として有効利用する計画
○建設発生土に自然由来の重金属等(鉛など)が含まれるため、周辺環境への影響及び処分費用を削減する工夫として盛土内に重金属等を封じ込める対策(管理型盛土)を実施
○要対策土はトンネル区間を中心に発生することから、全事業区間の進捗状況を踏まえ管理型盛土を施工
⇒まとまった量の要対策土が発生せず無対策土の仮置きが発生



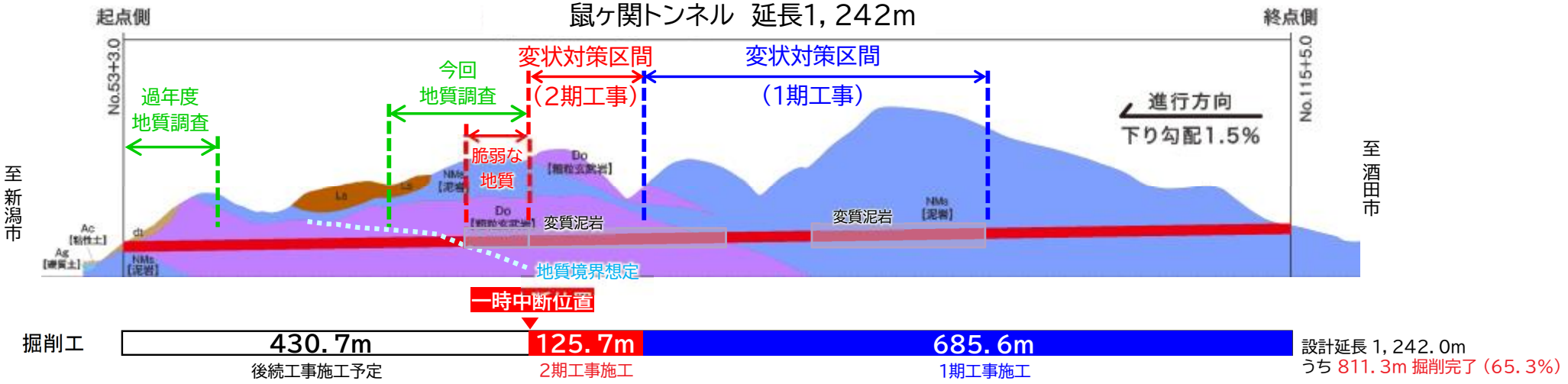
◆管理型盛土による
重金属等対策のイメージ



4. 課題とその対応 ： 早期整備効果発現に向けて

トンネルの確実な工事完成に向けて［山形県側］

○ 鼠ヶ関トンネルは想定していた地山より脆弱であったため、変状が発生し掘削を一時中断。
○ 地層状況の把握のため、一次中断位置から今後掘削する地山の地質調査を行ったところ、変状対策区間と同様の脆弱な地質が続いていることを確認。
○ そのため、確実に工事を完成させるため、今まで行ってきた脆弱な地層の崩落対策や、沈下など変状が発生した際の対策を盛り込んだ後続工事に向けた準備を進める。



脆弱な地層におけるトンネル変状対策（例）



▲ 沈下



▲沈下に対する対策例
（インバートストラットの設置）



▲ 切羽崩落



▲切羽崩落の対策例
（鏡吹付、鏡補強ボルト）

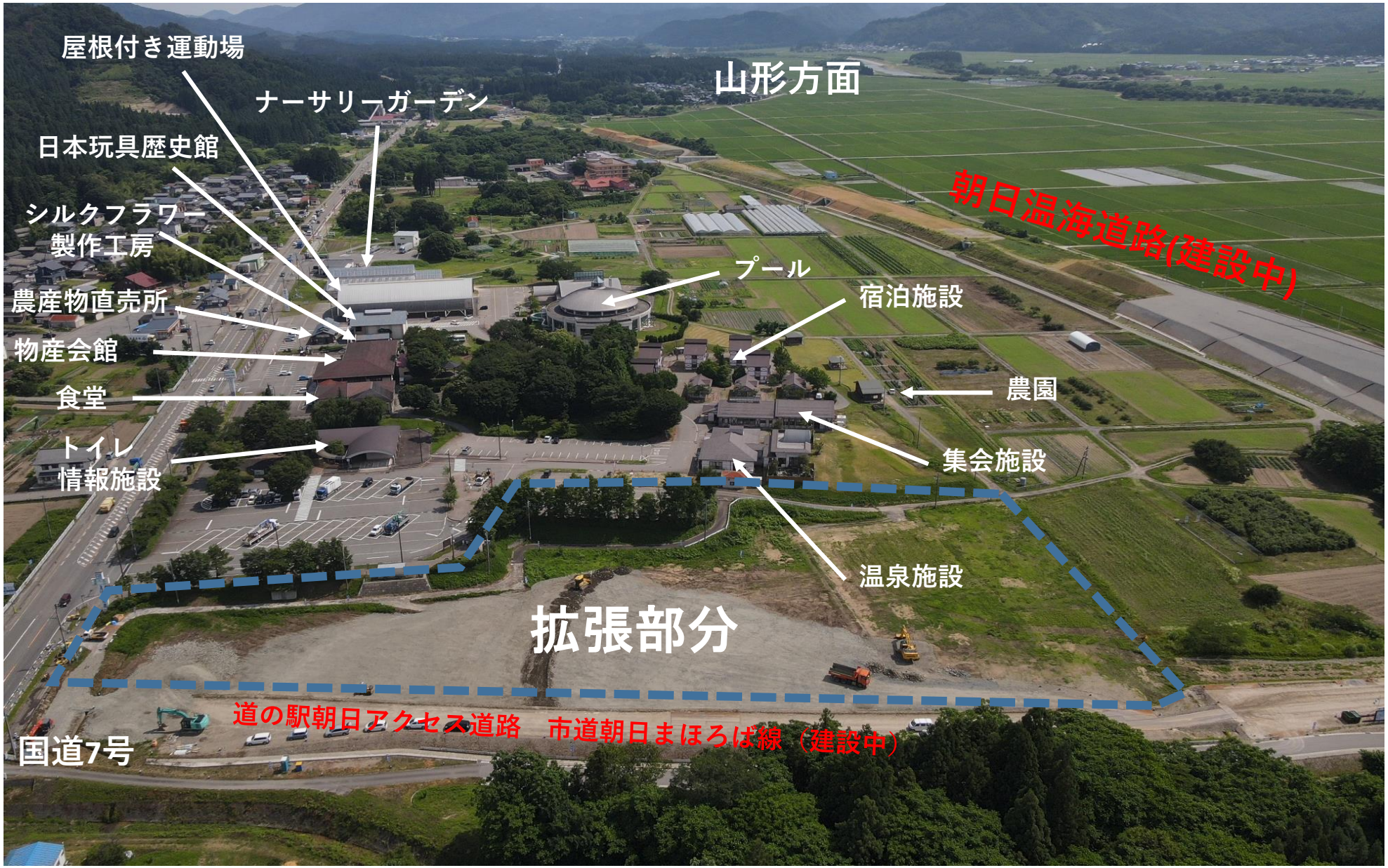
道の駅「朝日」
リニューアル整備事業

令和７年10月10日

村上市　観光課

新潟県
村上市

道の駅「朝日」リニューアル整備事業



道の駅「朝日」リニューアル整備事業

みんなでもてなし、みんながたのしい、
人々があつまる“まほろば”

そこにある魅力的な環境を最大限に活かし

地域内外の人々が集い、交流し、楽しみ、豊かな自然の恵みと文化を感じられる

村上市の魅力の詰まった道の駅とします。

新潟県
村上市

道の駅「朝日」リニューアル整備事業

みんなでもてなし、みんながたのしい、6つのコンセプト

1. 豊かな既存緑地を活かした自然豊かな公園緑地
2. 様々なヒト、モノ、コトの交流が賑わいを生む、魅力ある道の駅
3. 施設間連携を強化し、持続可能な運営を支える道の駅
4. 村上市の気候風土と調和し、長く愛される持続可能な道の駅
5. 災害時もヒト、モノ、コトが集まる安心安全な道の駅
6. 子育て世代を応援する「子育てバリアフリー」な道の駅

新潟県
村上市

道の駅「朝日」リニューアル整備事業

-整備前-



-整備後-



1. まゆの小道

敷地全体を回遊する「まゆの小道」を計画することで、施設間のつながりを持たせます。

2. 建物配置

まゆの小道に沿って各機能に合った場所に建物を配置し、園地と駐車場を分けた歩車分離の計画とします。

新潟県
村上市

道の駅「朝日」リニューアル整備事業

	建築概要
構造種別	木造
規模	地上１階建て
建築面積	1815.99 ㎡（販売棟：842.70 ㎡、食堂棟：621.30 ㎡、雁木広場：155.75 ㎡）
床面積	1586.10 ㎡（販売棟：784.79 ㎡、食堂棟：548.74 ㎡、雁木広場：149.30 ㎡）
駐車場・駐輪場	大型車：15 台　　バイク用：13台 小型車：126 台　　自転車用：20台 （小型車のうち、身障者用駐車場：２台、思いやり駐車場：２台、EV 急速充電器：２台、EV 普通充電器：8 台）
防災計画	・大災害発生時には道の駅全体の災害対応拠点及び一次避難場所として災害対応可能な道の駅を想定し、ライフラインが断絶した場合にも、災害発生後72 時間（３日間）は施設単独で機能することが可能な施設とします。 ・販売棟北側の園地部分は防災広場として計画し、マンホールトイレやかまどベンチを備えます。 ・災害時の電力確保は非常用発電機及び太陽光発電パネルと蓄電池で対応する計画とします。

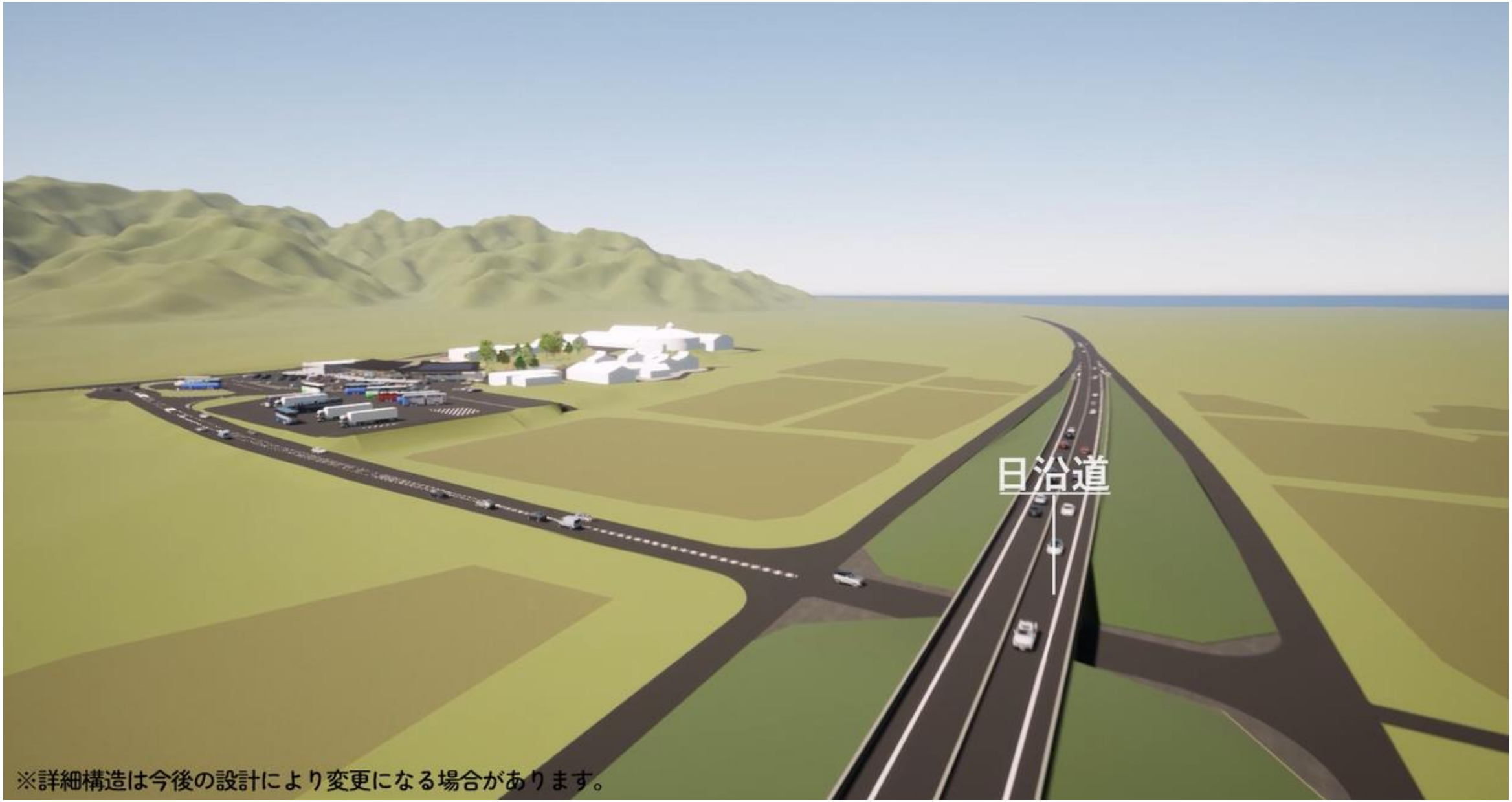
新潟県
村上市

道の駅「朝日」リニューアル整備事業



新潟県
村上市

道の駅「朝日」リニューアル整備事業



※詳細構造は今後の設計により変更になる場合があります。

新潟県
村上市

道の駅「朝日」リニューアル整備事業



※詳細構造は今後の設計により変更になる場合があります。

新潟県
村上市

道の駅「朝日」リニューアル整備事業



※詳細構造は今後の設計により変更になる場合があります。

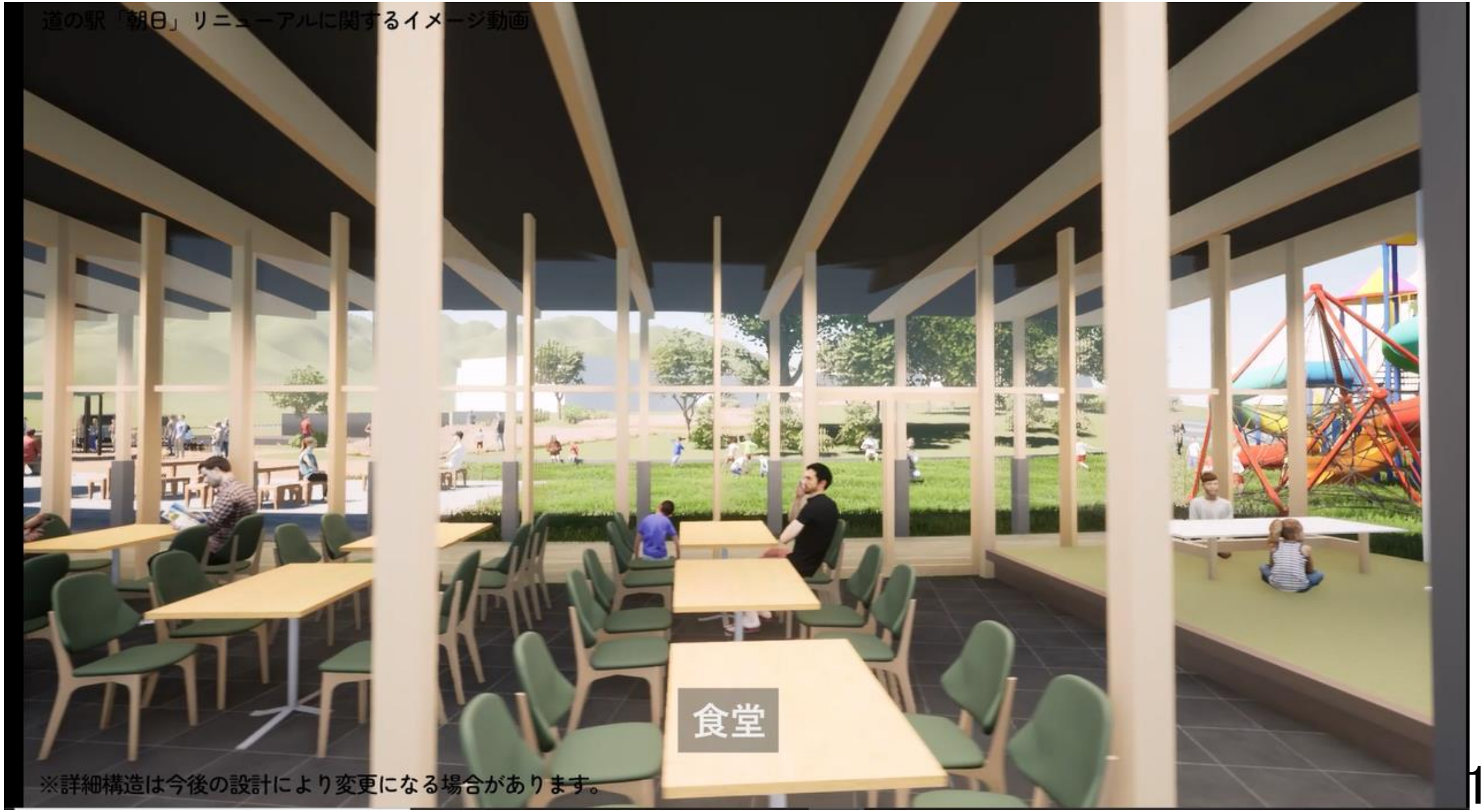
新潟県
村上市

道の駅「朝日」リニューアル整備事業



新潟県
村上市

道の駅「朝日」リニューアル整備事業



新潟県
村上市

道の駅「朝日」リニューアル整備事業



道の駅あつみ移転整備事業
基　本　設　計　概　要

2025 年 3 月

SPC:株式会社夕陽コミュニティ

１．施設構成と特長・配置計画

(1)親子3代家族連れで楽しめる道の駅

・道の駅が目的地となるための装置として「屋外遊び場」と、くつろぎ空間として「バレルサウナ」「RV パーク」を配置
・地元の皆様と連携し、温海地域の魅力を高め交流を加速する拠点として整備
・「屋外遊び場」は市の遊び場方針を踏まえ、シンボリックな大型遊具を中心に「海」をテーマにした広場空間とし、一部インクルーシブ遊具の設置に配慮
・ユニバーサルデザインによるバリアフリーな動線の確保

(2)自然体験、庄内観光の南玄関口となる道の駅

・屋外遊び場・くつろぎ空間・鼠ヶ関川親水広場は、シームレスにつながり一体的な広さの空間として、川のせせらぎや景色の中で、快適なくつろぎや遊びの時間が過ごせる場を提供

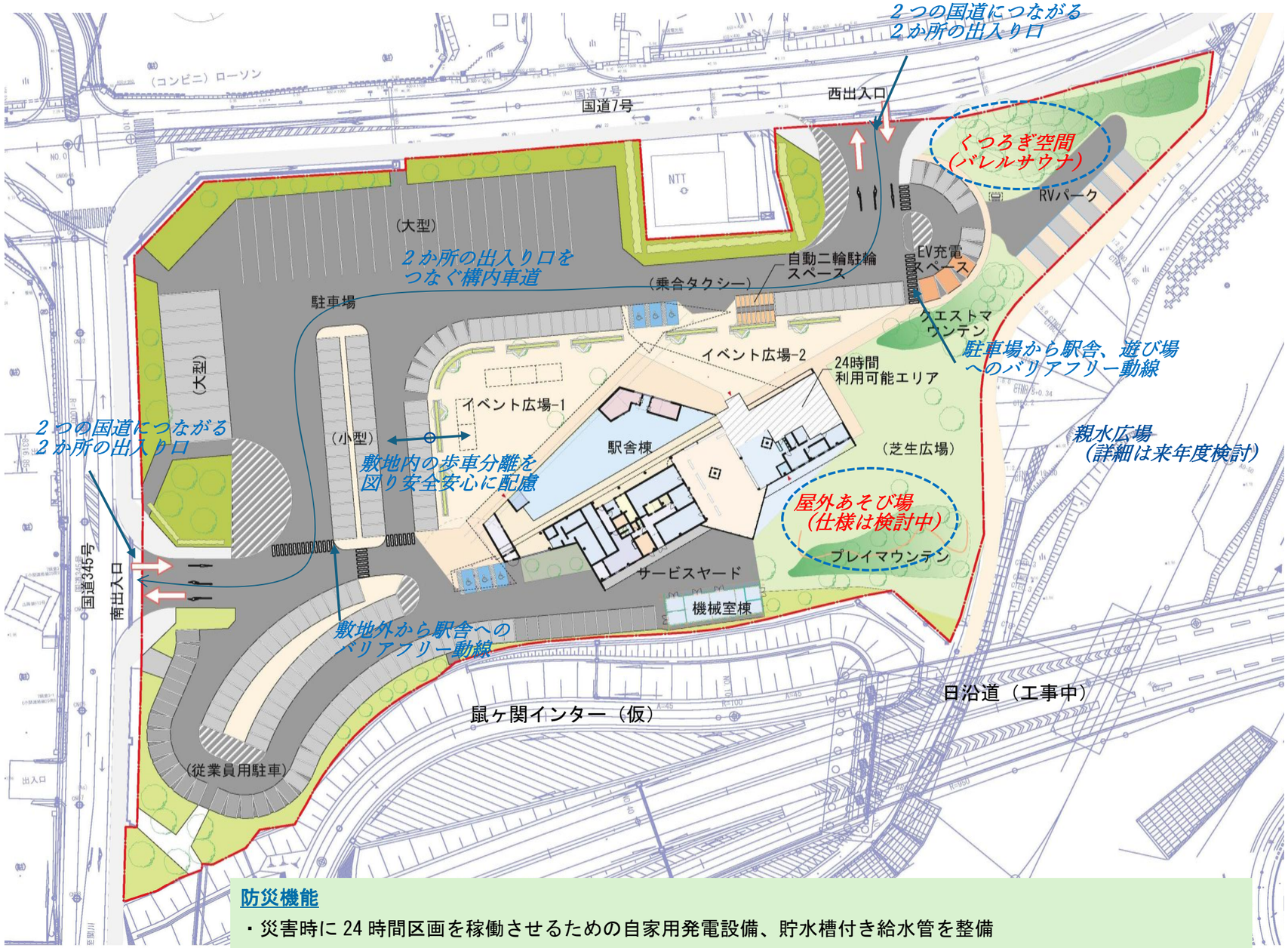
(3)日本海の台所、海･山の幸の 6 次化商品を生み出す道の駅

・イベント広場では、事業者の自主イベントに加え地元イベントの開催により、いつも何かをやっている新鮮さと楽しみを生み出す
・海や山の幸等の地域食材を目玉にして、地域住民が考案した 6 次化商品も含めここにしかない飲食物販を展開
・地元業者も参加する 6 区画による飲食提供
・温海地域・鶴岡市内の地場商品を中心とする産直・物販スペース
・地域住民も利用する 6 次化共同加工施設

＊本資料は基本設計時のイメージで、今後の詳細設計により、多少調整される場合があります

道路休憩施設

・国道 7 号一体型道の駅として、24 時間利用可能な駐車場・トイレ・おむつ替え部屋・簡易シャワールーム等を完備
・24 時間区画には、最新の道路情報及び観光情報を提供できる情報版設置スペースを確保
・道の駅の出入口を国道 7 号と、日沿道アクセス道路となる国道 345 号の 2 か所に設置



防災機能

・災害時に 24 時間区画を稼働させるための自家用発電設備、貯水槽付き給水管を整備
・地域防災としては地震時の一次避難場所に、広域防災としては大規模災害時における県外からの応援集結拠点に必要なスペース（イベント広場、駐車場）を確保

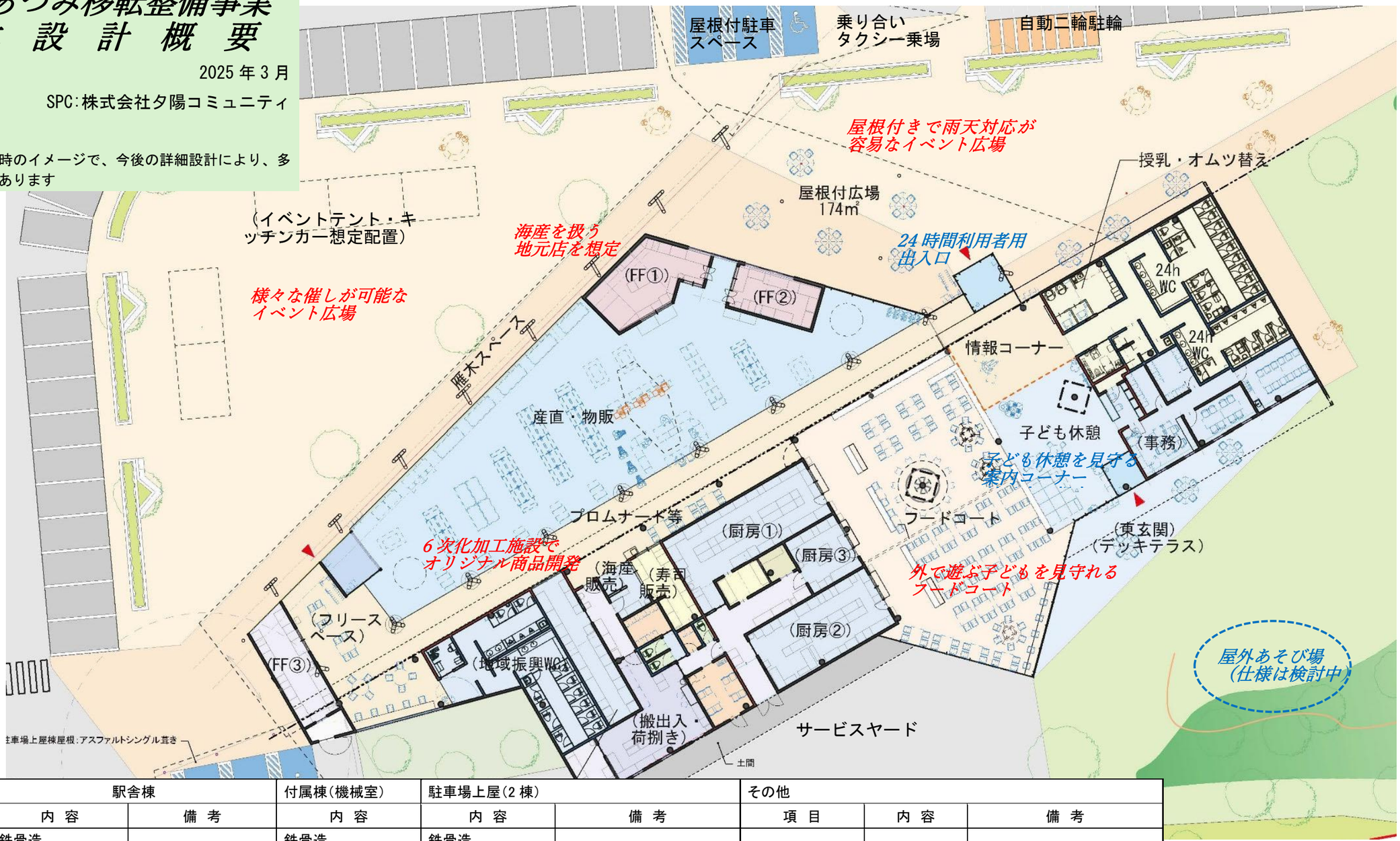
道の駅あつみ移転整備事業
基　本　設　計　概　要

2025 年 3 月

SPC:株式会社夕陽コミュニティ

２．平面計画

＊本資料は基本設計時のイメージで、今後の詳細設計により、多少調整される場合があります



施設概要	駅舎棟		付属棟（機械室）	駐車場上屋（2 棟）		その他		
	内　容	備　考	内　容	内　容	備　考	項　目	内　容	備　考
構造種別	鉄骨造		鉄骨造	鉄骨造		敷地面積	21,161.57 ㎡	
基礎	直接基礎	地盤改良	直接基礎	べた基礎				
免・制・耐震種別	耐震構造		耐震構造	耐震構造		建ぺい率	11.75%	
耐火建築等種別	準耐火建築物	ロ準耐（構造不燃）	その他	準耐火建築物		容積率	9.99%	
階数（地下・地上）	地上 1 階　地下無		地上 1 階　地下なし	地上 1 階　地下無		駐車台数	大型車：29 台	左記の他、身体障がい者用：6 台　EV 車用：3 台を　従業員用+業者用として小型車用 32 台を設置
建物の高さ	7.50m	高層棟屋根	3.6m	4.9m			小型車：139 台+兼用 40 台	
最高の高さ	7.50m	高層棟屋根	4.2m	5.1m				
建築面積	2,233.68 ㎡		123.00 ㎡	132.31 ㎡	上屋 1：86.77 ㎡、上屋 2：45.54 ㎡	イベント広場面積	1,997 ㎡	内、屋根付広場：174 ㎡
延べ面積	1,992.96 ㎡	屋内面積：1755.65 ㎡	123.00 ㎡	132.31 ㎡	上屋 1：86.77 ㎡、上屋 2：45.54 ㎡	緑化率	23.80%	敷地周囲際、芝生広場、築山 計 4980 ㎡
容積対象面積	1,992.96 ㎡		123.00 ㎡	132.31 ㎡	上屋 1：86.77 ㎡、上屋 2：45.54 ㎡			

道の駅あつみ移転整備事業
基　本　設　計　概　要

2025 年 3 月

SPC:株式会社夕陽コミュニティ

３．外観イメージパース

＊本資料は基本設計時のイメージで、今後の詳細設計により、多少調整される場合があります



①イベント広場から見た駅舎全景イメージ



くつろぎ空間に設置するバレルサウナイメージ



②駅舎屋根付き広場をイベント広場側からみる　左奥に駅舎低層棟



国道 7 号出入り口付近から駅舎を俯瞰する



③イベント広場イメージ　左にファストフード販売窓口
キッチンカーやパラソル付き休憩テーブルが並ぶ

道の駅あつみ移転整備事業
基　本　設　計　概　要

2025 年 3 月

SPC:株式会社夕陽コミュニティ

４．駅舎内部イメージパース

＊本資料は基本設計時のイメージで、今後の詳細設計により、多少調整される場合があります



駅舎子ども休憩スペース
左正面に見守りを兼ねた案内コーナー
右手外部が屋外あそび場



駅舎産直物販スペースイメージ　左手外部がイベント広場　天井や壁の一部に鶴岡市産杉材を活用



駅舎フードコートイメージ　正面奥に屋外あそび場を見通す



駅舎情報コーナーイメージ　左手に奥に 24 時間利用ＷＣや授乳室等

ROADSIDE
STATION
ATSUMI

新 道の駅あつみ

愛称募集

2027年4月 OPEN 予定

道の駅あつみ○○○○○

※文字数に制限はありません

新たに移転整備する道の駅が市民や来訪者に親しまれ
地域活性化に貢献する拠点となるよう愛称を募集します！

＼ 日本海の自然と食と遊びのテーマパーク ／

親子３代家族連れで楽しめる道の駅

あつみの海と森をテーマとした屋外広場・ワクワクがいっぱいの屋内子ども休憩スペース

自然体験・庄内観光の南玄関口となる道の駅

あつみ地域ならではのアクティビティや周遊観光の拠点としてのインフォメーション機能

日本海の台所 海山の６次化商品を地域と生み出す道の駅

地産食材を手軽に味わえるグルメコーナー・多彩な食資源を活用し地域の方と一緒に商品づくりにチャレンジ





移転先は
ねずがせき
鶴岡市鼠ヶ関
IC（予定地）隣接

応募資格｜鶴岡市民、鶴岡市に思い入れのある方

応募期間｜2025年10月1日（水）～10月31日（金）

賞　　品｜最優秀賞（１点）賞金５万円（高校生以下はギフトカード）
参加賞（７点）鶴岡市特産品５千円相当

応募方法｜①応募フォーム（Googleフォーム）
右記QRコードより応募

②応募用紙投函
必要事項を記入した応募用紙を以下に設置の専用応募箱に投函
鶴岡市役所ロビー/温海庁舎ロビー/道の駅あつみ「しゃりん」

③郵送
はがきに「愛称・フリガナ」「愛称の由来や意味、想い」
「住所・氏名・年齢・電話番号」を明記し右記へ送付

Check
募集要領

送付先・事務局

株式会社夕陽コミュニティ
「道の駅あつみ愛称募集係」
997-0031
山形県鶴岡市錦町2-60
✆ 0235-22-3033
担当　早坂・長澤・阿部

Entry
応募フォーム